



令和4年度

行田市自然環境調査



報告書



令和5年3月

行田市







# 目 次

1. 調査概要	1
1.1 調査件名	1
1.2 調査目的	1
1.3 履行期間	1
1.4 調査地点	1
1.5 調査項目	2
1.6 調査方法	2
1.7 調査実施日	3
1.8 希少種選定資料	5
2. 調査結果	6
2.1 ヒアリング調査	6
2.2 現地調査	9
(1) 植物	9
(2) 哺乳類	22
(3) 鳥類	23
(4) 両生類	26
(5) 爬虫類	28
(6) 昆虫類	32
3. 考察	47
3.1 生物多様性を涵養 <sup>かんよう</sup> する環境の保全	47
3.2 希少動植物の保全と生物多様性	47
3.3 外来生物の管理	49
3.4 自然環境調査地における環境保全対策の考え方	53
4. 資料編	57
4.1 資料調査	58
4.2 調査地の概観	67
4.3 確認生物	76
4.4 調査状況	82





## 1. 調査概要

### 1.1 調査件名

第3次行田市環境基本計画等策定業務 行田市自然環境調査

### 1.2 調査目的

本調査は、行田市の動植物の生息・生育状況を把握することを目的とし、調査結果は、地域の特徴を活かした適切な保護・保全対策の検討に資する基礎資料とする。

### 1.3 履行期間

自) 令和4年7月29日

至) 令和5年3月31日

### 1.4 調査地点

調査地点は、平成19年度、平成24年度に実施した自然環境調査地点である切所沼、星川、長善沼、小崎沼の4地点とした。調査地点位置を図1-1に示す。

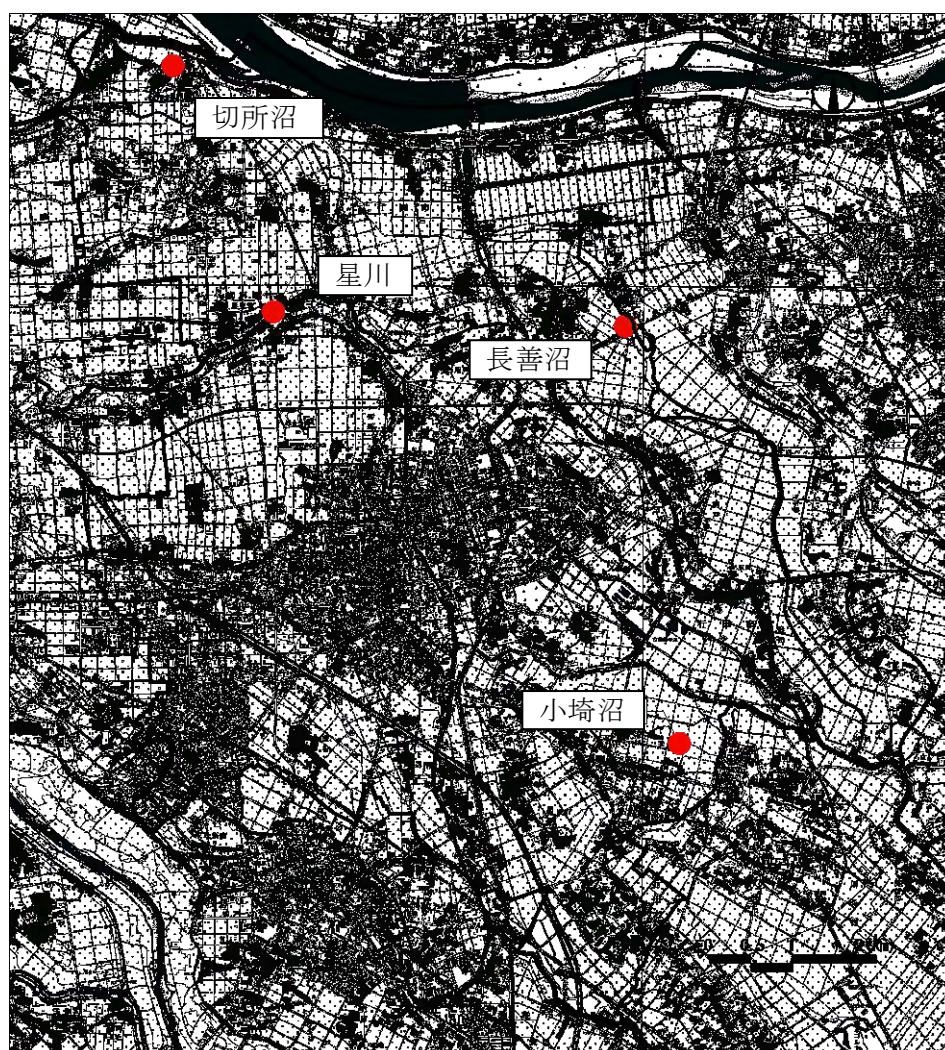


図 1-1 調査地点位置図

## 1.5 調査項目

植物：シダ植物以上の高等植物

動物：哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類、魚類・水生生物（ヒアリングのみ）

## 1.6 調査方法

### (1) ヒアリング調査

鳥獣保護員等にヒアリングを行い、市内の動植物の生息・生育状況について把握、整理した。

### (2) 資料調査

既存資料を基に、市内の動植物の生息・生育状況について把握、整理するとともに、保存すべき種を抽出した。（レッドデータブック（動物編）以外、地域に特化した新規の文献が無いことから、資料編にて整理）

#### ①植物

市内における保存すべき種、地域の特性を代表する種、植物相等について、確認状況や分布状況を把握した。

#### ②動物

市内における保存すべき種、地域の特性を代表する種について、確認状況や分布状況を把握した。

### (3) 現地調査

市内の保存すべき種の生息・生育状況を把握するため、調査地点を中心に、現地調査及び写真撮影を行った。

#### ①植物

調査地点を中心に多様な環境を踏査し、生育が確認されたシダ植物以上の高等植物を記録した。なお、希少種が確認された場合については、生育状況、確認地点等の記録を行った。

#### ②哺乳類

調査地点を中心に多様な環境を踏査し、目視確認による調査を実施した。特に足跡、糞、食痕などのフィールドサインの確認を重点に調査を実施した。なお、希少種が確認された場合については、生息状況、確認地点等の記録を行った。

※補足調査として小崎沼及び長善沼において、センサーカメラによる撮影を実施した。

#### ③鳥類

調査地点を中心に多様な環境を踏査する任意観察調査を実施し、生息が確認された種を記録した。また、ラインセンサス調査（全長 200m、片側 25m、移動速度概ね 2km/h）もあわせて実施した。なお、希少種が確認された場合については、飛翔の状況や確認地点等の記録を行った。

④両生類・爬虫類

調査地点を中心に多様な環境を踏査し、目視確認による調査を実施した。なお、希少種が確認された場合については、生息状況、確認地点等の記録を行った。

⑤昆虫類

調査地点を中心に多様な環境を踏査し、ネット等による捕獲、目視確認による調査を実施した。なお、希少種が確認された場合については、生息状況、確認地点等の記録を行った。

## 1.7 調査実施日

(1) ヒアリング調査

調査実施日：令和5年2月15日

(2) 現地調査

調査実施時期については、夏季及び秋季の2回、キタミソウの生育状況を確認する冬季1回、計3時期とした。

調査実施日を表1-1(1)～(3)に示す。

表 1-1(1) 調査実施日（夏季）

調査日	調査地点	開始時刻	終了時刻	調査項目
令和4年8月29日	埼玉地区小埼沼周辺	9:30	10:40	哺乳類(踏査、センサーカメラ)
	荒木地区長善沼周辺	11:00	12:00	両生・爬虫類(踏査)
	南河原地区星川周辺	13:10	14:00	昆虫類(一般採集、一部 ベイトトラップ)
	北河原地区切所沼周辺	14:20	16:00	
	埼玉地区小埼沼周辺	5:30	7:00	鳥類
	荒木地区長善沼周辺	7:20	9:00	
令和4年8月30日	埼玉地区小埼沼周辺	9:00	10:10	哺乳類(踏査)
	荒木地区長善沼周辺	10:30	12:00	両生・爬虫類(踏査)
	南河原地区星川周辺	13:10	14:30	昆虫類(一般採集)
	北河原地区切所沼周辺	14:30	16:00	
	北河原地区切所沼周辺	5:10	6:40	鳥類
	南河原地区星川周辺	7:00	8:30	
	南河原地区星川周辺	10:00	12:00	植物
	北河原地区切所沼周辺	13:30	15:30	
令和4年8月31日	埼玉地区小埼沼周辺	9:00	10:00	哺乳類(センサーカメラ回収)
	荒木地区長善沼周辺	10:30	11:00	鳥類(任意観察)
	北河原地区切所沼周辺	11:20	12:00	昆虫類(ベイトトラップ回収)
	南河原地区星川周辺	13:10	13:50	周辺環境確認
	埼玉地区小埼沼周辺	10:00	12:00	植物
	荒木地区長善沼周辺	13:30	15:30	



表 1-1(2) 調査実施日 (秋季)

調査日・天候	調査地点	開始時刻	終了時刻	調査項目
令和4年9月21日	埼玉地区小埼沼周辺	9:30	10:40	哺乳類(踏査、センサーカメラ)
	荒木地区長善沼周辺	11:00	12:00	両生・爬虫類(踏査)
	南河原地区星川周辺	13:10	14:00	昆虫類(一般採集、一部 ベイトトラップ)
	北河原地区切所沼周辺	14:20	16:00	
	埼玉地区小埼沼周辺	5:30	7:00	鳥類
	荒木地区長善沼周辺	7:20	9:00	
令和4年9月22日	埼玉地区小埼沼周辺	9:00	10:10	哺乳類(踏査)
	荒木地区長善沼周辺	10:30	12:00	両生・爬虫類(踏査)
	南河原地区星川周辺	13:10	14:30	昆虫類(一般採集)
	北河原地区切所沼周辺	14:30	16:00	
	北河原地区切所沼周辺	5:10	6:40	鳥類
	南河原地区星川周辺	7:00	8:30	
令和4年10月25日	埼玉地区小埼沼周辺	9:00	10:00	植物
	荒木地区長善沼周辺	10:30	12:00	
令和4年10月26日	南河原地区星川周辺	13:10	14:30	
	北河原地区切所沼周辺	14:30	16:00	

表 1-1(3) 調査実施日 (冬季)

調査日	調査地点	開始時刻	終了時刻	調査項目
令和5年1月27日	星川橋周辺	10:10	10:30	キタミソウ生育状況 〔星川河川敷〕
	馬見塚橋周辺	9:30	10:05	
	北進大橋周辺	10:45	11:05	
	天籟橋周辺	11:15	11:40	
	北宿橋周辺	11:50	12:15	

## 1.8 希少種選定資料

現地調査で確認された希少種の抽出に当たっては、表 1-2 希少種選定資料を参考にした。

表 1-2 希少種選定資料

選定基準となる文献及び法律		区分
I	「文化財保護法」 (昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国指定特別天然記念物 (特)</li> <li>・国指定天然記念物 (国)</li> <li>・県指定天然記念物 (県)</li> <li>・市町村指定天然記念物 (市町村)</li> </ul>
II	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内希少野生動植物種 (国内)</li> <li>・国際希少野生動植物種 (国際)</li> <li>・緊急指定種 (緊急)</li> <li>・生息地等保護区 (生息)</li> </ul>
III	「環境省レッドリスト 2020」 (2020 年 環境省)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶滅 (EX)</li> <li>・野生絶滅 (EW)</li> <li>・絶滅危惧 I A 類 (CR)</li> <li>・絶滅危惧 I B 類 (EN)</li> <li>・絶滅危惧 II 類 (VU)</li> <li>・準絶滅危惧 (NT)</li> <li>・情報不足 (DD)</li> <li>・絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)</li> </ul>
IV	「埼玉県レッドデータブック 2018 動物編」 (2018 年 埼玉県)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶滅 (EX)</li> <li>・野生絶滅 (EW)</li> <li>・絶滅危惧 I A 類 (CR)</li> <li>・絶滅危惧 I B 類 (EN)</li> <li>・絶滅危惧 II 類 (VU)</li> <li>・準絶滅危惧 (NT1, NT2)</li> <li>・情報不足 (DD)</li> <li>・絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)</li> <li>・地帯別危惧 (RT)</li> </ul>
	「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」 (2011 年 埼玉県)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶滅 (EX)</li> <li>・野生絶滅 (EW)</li> <li>・絶滅危惧 I 類 (CE)</li> <li>・絶滅危惧 I A 類 (CR)</li> <li>・絶滅危惧 I B 類 (EN)</li> <li>・絶滅危惧 II 類 (VU)</li> <li>・準絶滅危惧 (NT)</li> <li>・情報不足 (DD)</li> <li>・絶滅の恐れがある地域個体群 (LP)</li> </ul>

## 2. 調査結果

## 2.1 ヒアリング調査

調査地点におけるヒアリング調査結果を表 2-1 に示す。

表 2-1(1) 調査地点における確認情報

分類	北河原地区 切所沼	南河原地区 星川	荒木地区 長善沼	埼玉地区 小埼玉沼
植物	ヒメミズワラビ、ウスゲ チョウジタデ、コイヌガラシ、 コギシギシ、クマツヅラ	キタミソウ、オオカワ ヂシャ、コイヌガラシ	ミズヒマワリ、オオフサモ	ヒメミズワラビ、センニンモ、 ヤナギモ、コイヌガラシ、 コキクモ
哺乳類	タヌキ、ハクビシン、イ タチ、アライグマ、アズ マモグラ	タヌキ、ハクビシン、イ タチ、アライグマ	タヌキ、ハクビシン、イ タチ、アライグマ	タヌキ、ハクビシン、イ タチ、アライグマ、 アズマモグラ
鳥類	キジ、カワウ、バン、ノ スリ、トビ、セキレイ類 (セグロ・ハク等)、カ ラス類(ハシブト・ハシ ボソ)	カイツブリ、バン、カル ガモ、オオヨシキリ、カ ワセミ、オオタカ、チョ ウゲンボウ、ハヤブサ、 ノスリ、カワウ、キジ、 カラス類(ハシブト・ハ シボソ)	キジ、カモ類(カルガ モ・マガモ等)、カワウ、 キジバト、カラス類(ハ シブト・ハシボソ)、ノ スリ、トビ	キジ、ノスリ、カワウ、 トビ、オオタカ、カラス 類(ハシブト・ハシボ ソ)
両生類・ 爬虫類	ウシガエル、ヌマガエ ル、ミシシippアカミ ミガメ、マムシ	ウシガエル、トウキョ ウダルマガエル、ヌマ ガエル、ニホンアマガ エル、ヒバカリ、ミシシ ppアカミミガメ、マ ムシ	ウシガエル、ヌマガエ ル、ミシシippアカミ ミガメ、アオダイショ ウ	ウシガエル、ヌマガエ ル、アオダイショウ
魚類・ 水生生物	オオクチバス、ブルー ギル、コイ、フナ類(ゲ ンゴロウ、ギン等)	ヨシノボリ類(クロダ、 カワ等)、ニゴイ、ウグ イ、モツゴ、コイ、フナ 類(ギン・キン)、タモ ロコ、オオクチバス、ブ ルーギル、オイカワ、カ マツカ、ドジョウ、ニホ ンウナギ、シジミ類(マ シジミ・タイワンシジ ミ等)	コイ、フナ類(ギン・キ ン)、ドジョウ	フナ類(ギン・キン)、 ドジョウ
昆虫類	ウチワヤンマ、コフキ トンボ、オオチャバネ セセリ	アカボシゴマダラ、ウ ラギンシジミ、クマゼ ミ、ヒョウモンチョウ、 タマムシ、ツマグロヒ ョウモン	スズムシ、ハネナガイ ナゴ、ヒメナガメ、コガ ムシ、オオチャバネセ セリ	マユタテアカネ、アオ マツムシ、ツクツクボ ウシ、アオドウガネ、ゴ マダラチョウ

表中の略称

類	略称	和名
カラス類	ハシブト・ハシボソ	ハシブトガラス・ハシボソガラス
セキレイ類	セグロ・ハク	セグロセキレイ・ハクセキレイ
フナ類	ゲンゴロウ、ギン・キン	ゲンゴロウブナ、ギンブナ・キンブナ
ヨシノボリ類	クロダ・カワ	クロダハゼ・カワヨシノボリ



表 2-1(2) 調査地点における確認情報

項目	北河原地区 切所沼	南河原地区 星川	荒木地区 長善沼	埼玉地区 小埼沼
増減が 見られた 動植物	<増加> 鳥類：キジ、カワウ 魚類：ゲンゴロウブナ	<増加> 鳥類：キジ、カワウ、 ムクドリ 昆虫類：アオマツムシ、 クビアカツヤカミキリ 魚類：ゲンゴロウブナ	<増加> 鳥類：カワウ	<増加> 鳥類：カワウ
	<減少> 鳥類：サギ類（チュウ サギ） 爬虫類：アオダイショ ウ、シマヘビ、ヤマカ ガシ、マムシ 両生類：トウキョウダ ルマガエル 昆虫類：トンボ類、オ オムラサキ、イナゴな どのバッタ類 魚類：フナ類（ギン・ キン）、ドジョウ 甲殻類：アメリカザリ ガニ	<減少> 鳥類：シラコバト、サ ギ類（チュウサギ） 爬虫類：アオダイショ ウ、ジムグリ、シマヘ ビ、マムシ、ヤマカガ シ 両生類：トウキョウダ ルマガエル 昆虫類：トンボ類、ヤ マトシジミ、ツバメシ ジミ、ルリシジミ、ウ ラナミシジミ 魚類：タイリクバラタ ナゴ、フナ類（ギン・ キン） 貝類：ドブガイ	<減少> 植物：水草、ヨシ 哺乳類：タヌキ、アカ ギツネ 鳥類：サギ類（チュウ サギ） 爬虫類：アオダイショ ウ、シマヘビ、ヤマカ ガシ、マムシ 両生類：トウキョウダ ルマガエル 昆虫類：トンボ類 魚類：ナマズ、カムル チー、ニホンウナギ、 フナ類（ギン・キン）	<減少> 鳥類：キジ、サギ類（チ ュウサギ） 爬虫類：アオダイショ ウ、シマヘビ、ヤマカ ガシ、マムシ 両生類：トウキョウダ ルマガエル
昔みかけた 動植物	鳥類：フクロウ 爬虫類：イシガメ、ク サガメ	鳥類：フクロウ、ウズ ラ（昭和 40 年代初めま で繁殖） 両生類：シュレーゲル アオガエル、ニホンア ガガエル、アカハライ モリ（昭和 20 年代） 爬虫類：イシガメ、ク サガメ 昆虫類：ノコギリクワ ガタ、コクワガタ、カ ブトムシ	爬虫類：イシガメ 魚類：タナゴ類（ヤリ・ アカヒレ等）	爬虫類：イシガメ、ク サガメ

表中の略称

類	略称	和名
フナ類	ギン・キン	ギンブナ・キンブナ
タナゴ類	ヤリ・アカヒレ	ヤリタナゴ・アカヒレタビラ

<市内の動植物に関する補足情報>

**【哺乳類の生息状況】**

福川や利根川、星川等にはニホンジカやイノシシも出現しているが、アライグマとハクビシンの生息数が多い。アライグマはウイルス等の媒介による人的被害が考えられるが、捕獲数の割に被害報告数は少ない。一方、ハクビシンについては、施設野菜が集中的に被害を受けるとともに、古い住宅や空き家への侵入など、生活圏に入り込む形での被害となっている。

**【水田地域での生態系】**

市内多くの面積を占める水田地域では、様々な生物のゆりかごとなっている。しかし、農業の機械化などに起因する農事暦の早期化・短縮化により、トンボ類をはじめとする生物が減少している。また、農業環境で水路がコンクリート構造になることでアメリカザリガニが減少傾向にあり、多くの生物にとって打撃となっている。今後整備する際には、生態系に配慮した工法を取り入れるなど、生物多様性の増進に努める必要がある。

**【外来生物】**

市内随所に外来動植物がみられるようになった。法的な特定外来生物種も多く、積極的な駆除が望まれる。前述の哺乳類のみならず、ウシガエルやミシシippアカミミガメ、クビアカツヤカミキリ等、生物多様性の保全に対して大きな打撃が考えられる。

## 2.2 現地調査

### (1) 植物

現地調査の結果、79科241種の植物を確認した。また、9科13種が希少種として選定され、水田、水路やその周辺のほか、畑地などで生育を確認した。

現地調査で確認された希少植物を表2-2に示す。また、確認された植物一覧を表2-3(1)～(6)に示す。

現地調査で確認された希少植物確認状況及び確認位置を表2-4(1)、(2)及び図2-1～4に示す。

表2-2 現地調査で確認された希少植物一覧

科名	和名	選定基準				現地調査 (R4)			
		I	II	III	IV	切所沼	星川	長善沼	小崎沼
イノモトウ	ヒメミズワラビ				NT	○	○	○	○
ヒルムシロ	エビモ				NT			○	
	センニンモ				NT				○
	ヤナギモ				NT			○	○
	ササハモ				NT			○	
ミソハギ	ミズマツバ			VU	VU	○	○		
アカバナ	ウスゲチヨウジタテ			NT	VU	○			
アブラナ	コイヌガラシ			NT	NT	○	○	○	
タテ	コキシギシ			VU	VU	○	○		
オオバコ	コキクモ			VU				○	○
	キタミソウ			VU	EN		○		
シソ	ミゾコウジュ			NT	NT		○		
クマツヅラ	クマツヅラ				VU	○			
9科	13種	0種	0種	7種	12種	5種	6種	7種	5種



ヒメミズワラビ



コイヌガラシ



キタミソウ



表 2-3(1) 現地調査で確認された植物一覧

科名	和名	夏				秋			
		切所沼	星川	長善沼	小埼沼	切所沼	星川	長善沼	小埼沼
トクサ	スキナ	○	○	○	○	○	○	○	○
	トクサ	○				○			
イノモトソウ	ヒメミスワラビ <sup>*1</sup>	○	○	○	○	○	○	○	○
	イノモトソウ			○					
メシタ	イヌワラビ				○				
	シケシタ								○
イチヨウ	イチヨウ				○				○
マツ	アカマツ				○				
コウヤマキ	コウヤマキ				○				
ヒノキ	スキ								○
マツブサ	サネカスラ		○		○		○		○
トクダミ	トクダミ				○	○	○		○
モクレン	コブシ				○				
クスノキ	シロタモ		○		○	○	○		○
サトイモ	アオウキクサ	○	○	○	○			○	○
	カラスヒシヤク				○	○			
	ウキクサ	○		○					
オモダカ	オモダカ				○				
トチカガミ	オオカナタモ							○	
	コカナタモ			○	○			○	
ヒルムシロ	エビモ							○	
	センニンモ				○				
	ヤナギモ				○			○	
	ササハモ							○	
ヤマノイモ	ヤマノイモ		○		○				
ヒガンバナ	ニラ	○	○	○		○		○	
	ヒガンバナ						○		○
クサスキカスラ	ジヤノヒゲ		○		○	○	○	○	○
	オモト				○				
ヤシ	シュロ		○		○		○	○	
ツユクサ	マルハツユクサ	○				○		○	
	ツユクサ	○	○	○	○	○	○	○	○
	イホクサ	○	○	○			○		
	ヤブミョウガ				○				○
ミスアオイ	コナギ			○	○	○		○	
カヤツリグサ	タマカヤツリ	○	○	○		○		○	
	ヒナカヤツリ		○	○			○		
	ココメカヤツリ	○	○	○	○	○	○	○	○
	カヤツリグサ	○		○	○	○	○		
	ウシクグ						○		
	ハマスケ	○		○					
	カリラスカナ	○	○						
	マツハイ		○				○		
	クロクワイ								○
	ヒテリコ	○	○	○	○	○	○		

表 2-3 (2) 現地調査で確認された植物一覧

科名	和名	夏				秋			
		切所沼	星川	長善沼	小埼沼	切所沼	星川	長善沼	小埼沼
カヤツリグサ	ヒメクグ					○	○		
	イヌホタルイ			○	○				
イネ	キョウキシハ			○					
	メヒシハ	○	○	○		○	○	○	○
	アキメヒシハ						○		
	ケイヌヒエ	○	○	○					
	イヌヒエ	○	○	○	○	○			○
	オヒシハ	○	○	○	○	○	○	○	○
	シナダレスメカヤ			○					
	カセクサ	○							
	ニワホコリ	○	○	○	○				
	アセカヤ	○	○	○	○	○	○	○	○
	アシホソ								○
	オキ		○	○			○	○	
	ケチミササ				○				○
	ヌカキヒ					○			○
	オオクサキヒ	○							
	シマスメノヒエ	○		○					
	スズメノヒエ		○				○		
	チカラシハ	○							
	モウソウチク		○						
	マダケ						○		
	ヨシ	○	○		○	○	○	○	○
	アスマネササ		○		○	○			○
	アキノエノコログサ	○		○	○			○	○
キンエノコ	○				○				
エノコログサ	○	○	○		○		○	○	
オカメササ				○				○	
セイバンモロコシ	○	○	○		○	○	○		
マコモ			○				○		
ケシ	タケニグサ	○				○			
アケビ	アケビ			○					
	ムベ				○			○	
ツツラフジ	アオツツラフジ				○			○	
メキ	ナンテン							○	
キンポウゲ	センニンソウ	○				○			
	ケキツネノボタン	○				○	○		
アリノトウグサ	オオフサモ			○			○		
ブトウ	ノブトウ		○				○		
	ヤブカラシ	○	○	○	○	○	○	○	
	ツタ				○			○	
	エビヅル						○		
	サンカクヅル						○		
マメ	クサネム	○	○	○		○			
	ヤブマメ		○		○		○	○	
	アレチヌスビトハギ	○	○	○			○		

表 2-3(3) 現地調査で確認された植物一覧

科名	和名	夏				秋			
		切所沼	星川	長善沼	小埼沼	切所沼	星川	長善沼	小埼沼
マメ	ツルマメ		○	○			○		
	マルバヤハスソウ	○							
	ヤハスソウ			○					
	メトハキ			○					
	クズ		○	○			○		
	ムラサキツメクサ	○	○	○		○	○		
	シロツメクサ	○		○		○		○	○
	ヤブツルアズキ	○		○		○			
	フジ		○		○		○		○
バラ	ヘビイチゴ		○			○	○		
	ノイバラ			○	○		○		○
ニレ	ケヤキ					○			
アサ	ムクノキ	○	○	○	○	○	○		○
	エノキ	○	○	○	○	○	○	○	○
	カナムグサ			○				○	
クワ	カンノキ		○	○	○	○	○		○
	クワクサ				○	○			○
	イタヒカスラ								○
	ヤマグサ				○	○			
イラクサ	ヤブマオ				○				○
	カラムシ	○							
ブナ	スタシイ			○				○	
	シラカシ		○			○	○		○
クルミ	オニグルミ		○		○			○	
ウリ	アマチャヅル				○				
	アレチウリ	○		○		○	○	○	
	カラスウリ		○		○				○
	スズメウリ		○	○			○		
ニシキギ	ツルウメモドキ			○				○	
	マサキ				○				○
	マユミ					○			
カタハミ	カタハミ	○							
	オッタチカタハミ	○	○	○	○	○	○		○
トウダイグサ	エノキグサ	○		○		○	○	○	○
	コニシキソウ	○	○	○	○	○			○
	オオニシキソウ	○	○	○		○	○		○
	アカメカシラ	○	○	○	○	○	○	○	○
ミゾハコベ	ミゾハコベ		○			○			
ヤナギ	アカメヤナギ	○	○						
フウロソウ	アメリカフウロ		○			○		○	
ミソハギ	ホソバヒメミソハギ	○	○	○		○		○	○
	ミソハギ		○						
	キカシグサ		○	○		○	○		
	ミスマツハ		○	○			○		
アカバナ	チョウジタテ	○	○	○	○	○	○	○	○
	ウスケチョウジタテ	○							

表 2-3(4) 現地調査で確認された植物一覧

科名	和名	夏				秋			
		切所沼	星川	長善沼	小埼沼	切所沼	星川	長善沼	小埼沼
アカバナ	メマツヨイクサ		○						
	ユウゲショウ	○	○	○	○	○	○	○	○
ウルシ	ハゼノキ				○				
ムクロシ	イロハモシ				○				○
	トチノキ			○					
センダン	センダン		○	○					
アブラナ	ナズナ					○	○	○	○
	タネツケバナ		○	○	○	○	○	○	○
	マメクシハ イナスナ	○		○					
	コイヌカラシ	○	○	○	○	○	○	○	○
	スカシタコホウ	○	○	○	○	○	○	○	○
タデ	ヤナキタデ					○			
	オオイスタデ	○					○		
	イヌタデ	○		○		○	○	○	○
	イシミカリ		○						
	ハナタデ				○				
	ニオイタデ	○							
	ミチヤナキ	○			○				
	コキシキシ	○				○	○		
ギシキシ	○								
ナデシコ	オランダミミナグサ							○	○
	ウシハコバ					○			
	コハコバ		○			○			
ヒユ	ヒカゲイノコヅチ		○						○
	ヒナタイノコヅチ	○	○	○	○	○			○
	イヌヒユ		○		○		○		○
	ホソアオケイトウ	○		○	○	○			
	シロサ	○	○	○	○	○		○	
	コアカサ			○					
	コウシュウアリタソウ	○	○	○	○	○		○	○
ヤマコホウ	ヨウシュヤマコホウ			○					
ザクロソウ	ザクロソウ	○	○	○			○		
スベリヒユ	スベリヒユ	○	○	○	○	○	○	○	
	ヒメマツバホタン		○			○			
サカキ	サカキ				○				
	ヒサカキ				○				○
サクラソウ	コナスビ							○	
ツバキ	サザンカ							○	
アオキ	アオキ				○			○	
アカネ	ヘクソカズラ		○	○			○		
	アカネ				○				
キョウチクトウ	カカイモ	○	○	○	○	○		○	
ムラサキ	ハナイバナ	○	○	○	○	○	○	○	
ヒルカオ	コヒルカオ	○	○			○			
	ヒルカオ		○	○					
	マルハルコウ	○		○			○	○	

表 2-3 (5) 現地調査で確認された植物一覧

科名	和名	夏				秋			
		切所沼	星川	長善沼	小埼沼	切所沼	星川	長善沼	小埼沼
ヒルガオ	マルバアメリカアサガオ	○		○					
	マメアサガオ	○							
ナス	クコ		○						
	ヒヨドリシヨウコ		○						
	イヌホオズキ	○		○	○	○			○
モクセイ	ネスミモチ				○				
	イボタノキ				○				
オオハコ	コキモ							○	○
	キタミソウ						○		
	オオハコ	○		○		○			
	ヘラオオハコ		○				○		
	オオイヌノフグリ	○	○	○		○	○	○	○
アゼナ	ウリクサ		○		○				
	アメリカアゼナ	○	○	○		○	○	○	○
	アゼナ		○		○				
シソ	クサキ		○	○					
	ホトケノサ					○	○	○	○
	ミゾコウジ						○		
ハエトクソウ	ムラサキサギゴケ					○			
	トキワハゼ	○	○		○	○	○	○	○
キツネノマコ	キツネノマコ	○	○	○		○	○	○	
クマツヅラ	ヤナキハナカサ	○					○		
	クマツヅラ					○			
モチノキ	イヌツゲ				○				
キク	オオブタクサ		○	○		○			
	ヨモギ	○	○	○		○	○	○	
	ユウガキク	○							
	カントウヨメナ					○	○		
	アメリカセンダングサ		○	○	○	○	○		○
	コセンダングサ	○	○	○	○	○	○	○	○
	トキンソウ	○	○	○	○	○	○	○	
	アメリカカタカサフロウ	○	○	○	○	○	○		○
	ハルジオン	○	○	○		○	○	○	○
	ヒメシヨオン			○				○	
	ヒメムカシヨモギ	○	○	○			○		
	オオアレチノギク	○							
	ハキタメギク	○	○	○	○	○		○	○
	ミスヒマワリ							○	
	キツネアサミ					○			
	キクイモ			○				○	
	オオシシハリ		○				○	○	
	アキノゲシ		○	○					○
	ホソバアキノゲシ		○	○		○	○	○	
	ハハコグサ					○			○
ノボロギク		○			○	○		○	
セイヤカリアタチソウ		○	○	○	○	○	○		



表 2-3(6) 現地調査で確認された植物一覧

科名	和名	夏				秋			
		切所沼	星川	長善沼	小埼沼	切所沼	星川	長善沼	小埼沼
キク	ノゲシ	○	○		○	○	○	○	○
	オノゲシ					○	○	○	
	ヒロハホウキギク					○			
	セイヨウタンポポ	○	○	○		○	○	○	
	オオナモミ	○		○	○	○	○		○
	オニタビラコ				○	○			○
ガマズミ	ニワトコ				○				○
	サンゴシユ			○				○	
スイカズラ	スイカズラ		○	○	○		○		○
ウコギ	ヤツテ				○				○
	キツタ		○		○	○			○
セリ	セリ					○			
79 科	241 種	95 種	108 種	107 種	97 種	104 種	92 種	71 種	93 種

\*1 従来のミズワラビは、現在ヒメミズワラビとなっている。

表 2-4(1) 希少植物確認状況

調査地点	和名	調査季	株数	確認地点
切所沼	ヒメミズワラビ	夏季	1 株	1 休耕田
			1000 株以上	2 水田及び休耕田
			100 株以上	3 休耕田
	ウスゲチョウシクダ	夏季	2 株	4 休耕田
	コイヌガラシ	夏季	22 株	5 水田畦
			4 株	6 休耕田
			3 株	7 休耕田
			6 株	8 畑地の土手
		秋季	6 株	9 水田近くの土手
	コギシギシ	夏季	2 株	10 水路沿いの土手
		秋季	10 株	11 水路沿いの土手
	クマツヅラ	秋季	1 株	12 水路沿いの土手
星川	ヒメミズワラビ	夏季	200 株以上	1 休耕田
	ミスマツハ	夏季	50 株以上	2 休耕田
		秋季	10 株以上	3 休耕田
	コイヌガラシ	夏季	1 株	4 水田沿いの土手
			1 株	5 水田沿いの土手
		秋季	100 株以上	6 河川敷
			1000 株以上	7 河川敷
	コギシギシ	秋季	4 株	8 河川敷
			20 株以上	9 河川敷
			50 株以上	10 河川敷
	キタミソウ	秋季	100 株以上	11 河川敷
			30 株以上	12 河川敷
			50 株以上	13 河川敷
			20 株以上	14 河川敷
			1000 株以上	15 河川敷
	ミヅコウジユ	秋季	8 株	16 休耕田
			1 株	17 休耕田

注) 「確認位置」は希少植物確認位置図の番号に対応している。

表 2-4(2) 希少植物確認状況

調査地点	和名	調査季	株数	確認地点
長善沼	ヒメスズラビ	夏季	50 株以上	1 水田
			2 株	2 水田
			2 株	3 土水路沿い
			50 株以上	4 水田
	エビモ	秋季	1 株	5 水路
			1 株	6 水路
	ヤナギモ	秋季	1 株	7 水路
			1 株	8 水路
	ササハモ	秋季	4 株	9 水路
			6 株	10 水路
			10 株以上	11 水路
	ミスマツハ	夏季	2 株	12 水田
			7 株	13 水田
		秋季	3 株	14 水田
			10 株以上	15 水路
	コイヌカラス	夏季	5 株	16 水田畦
			50 株	17 畑地
			10 株	18 水出畦
			200 株以上	19 水田
			100 株以上	20 土水路沿い
		秋季	1000 株以上	21 水路沿い
コキモ	秋季	1 株	22 水田	
		1 株	23 水田	
		2 株	24 水路	
小崎沼	ヒメスズラビ	夏季	1 株	1 水田
			20 株	2 水田
			12 株	3 水田
			4 株	4 水田
	センニンモ	夏季	1 株	5 水田
	ヤナギモ	夏季	1 株	6 水田
	コイヌカラス	夏季	50 株以上	7 水田畦
			1 株	8 水田沿いの土手
			1 株	9 水田沿いの土手
		秋季	3 株	10 畑地
10 株	11 畑地			
コキモ	秋季	20 株以上	12 水田	
		50 株以上	13 水田	

注) 「確認位置」は希少植物確認位置図の番号に対応している。

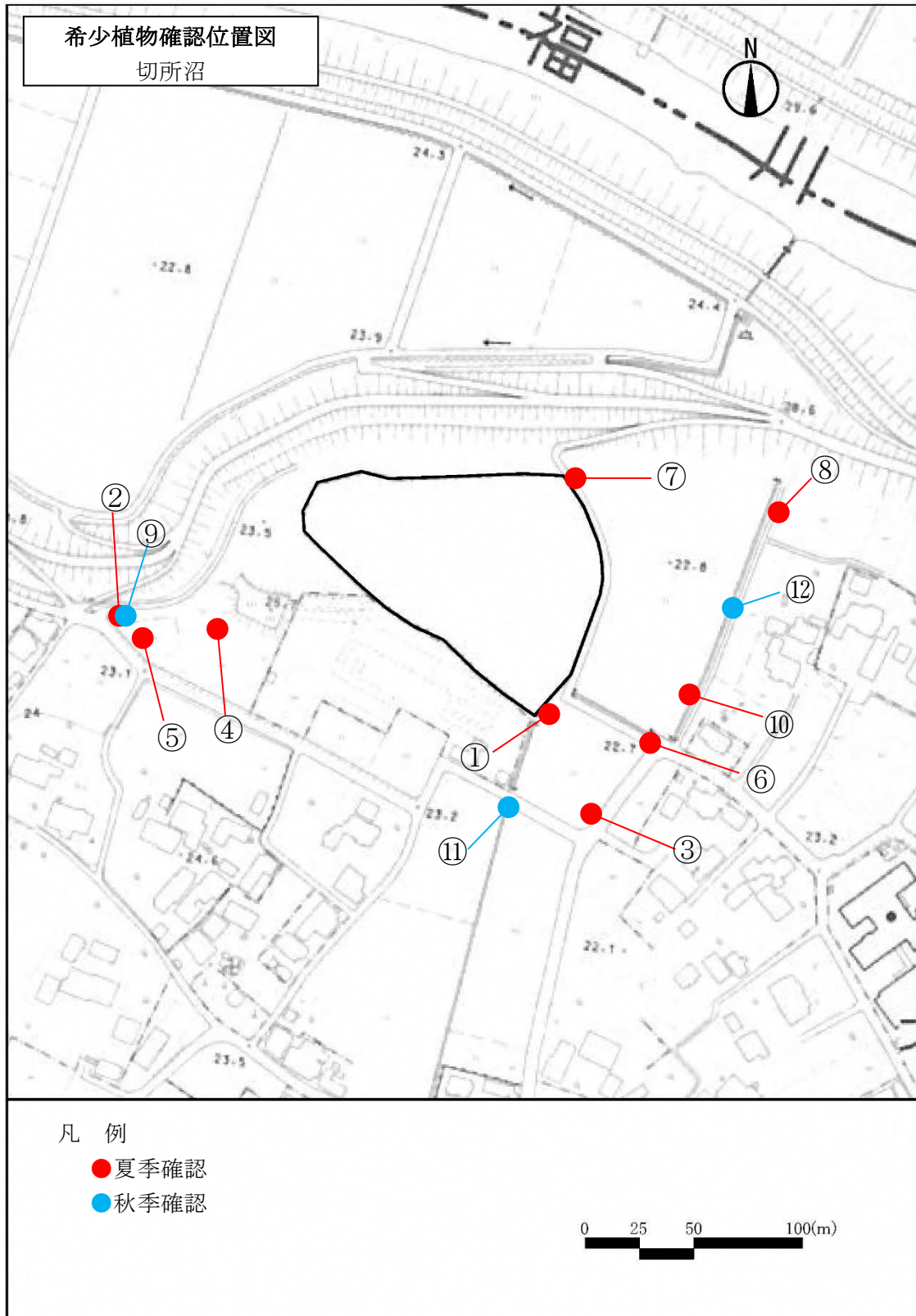


図 2-1 希少植物確認位置図〔切所沼〕

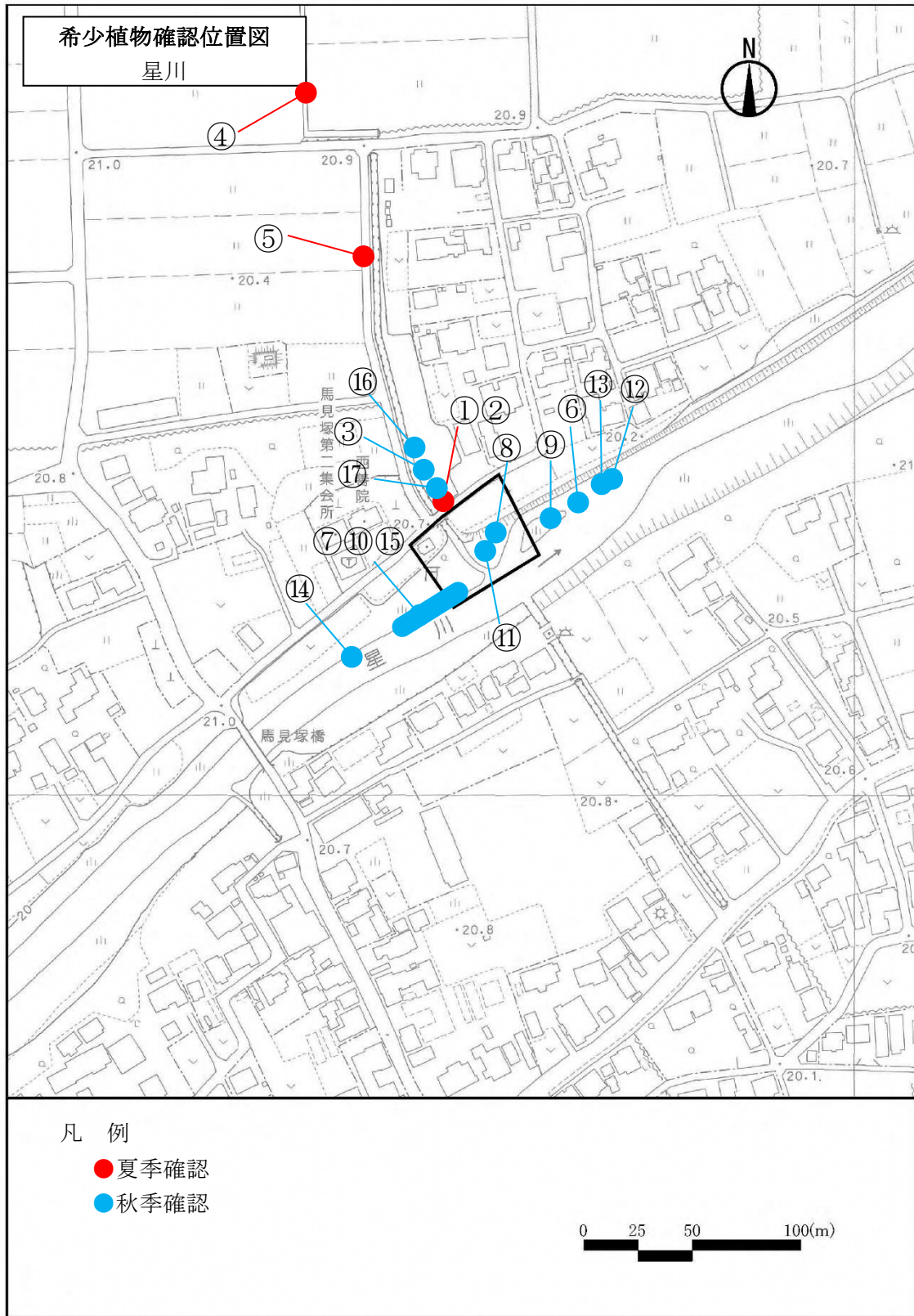


図 2-2 希少植物確認位置図〔星川〕



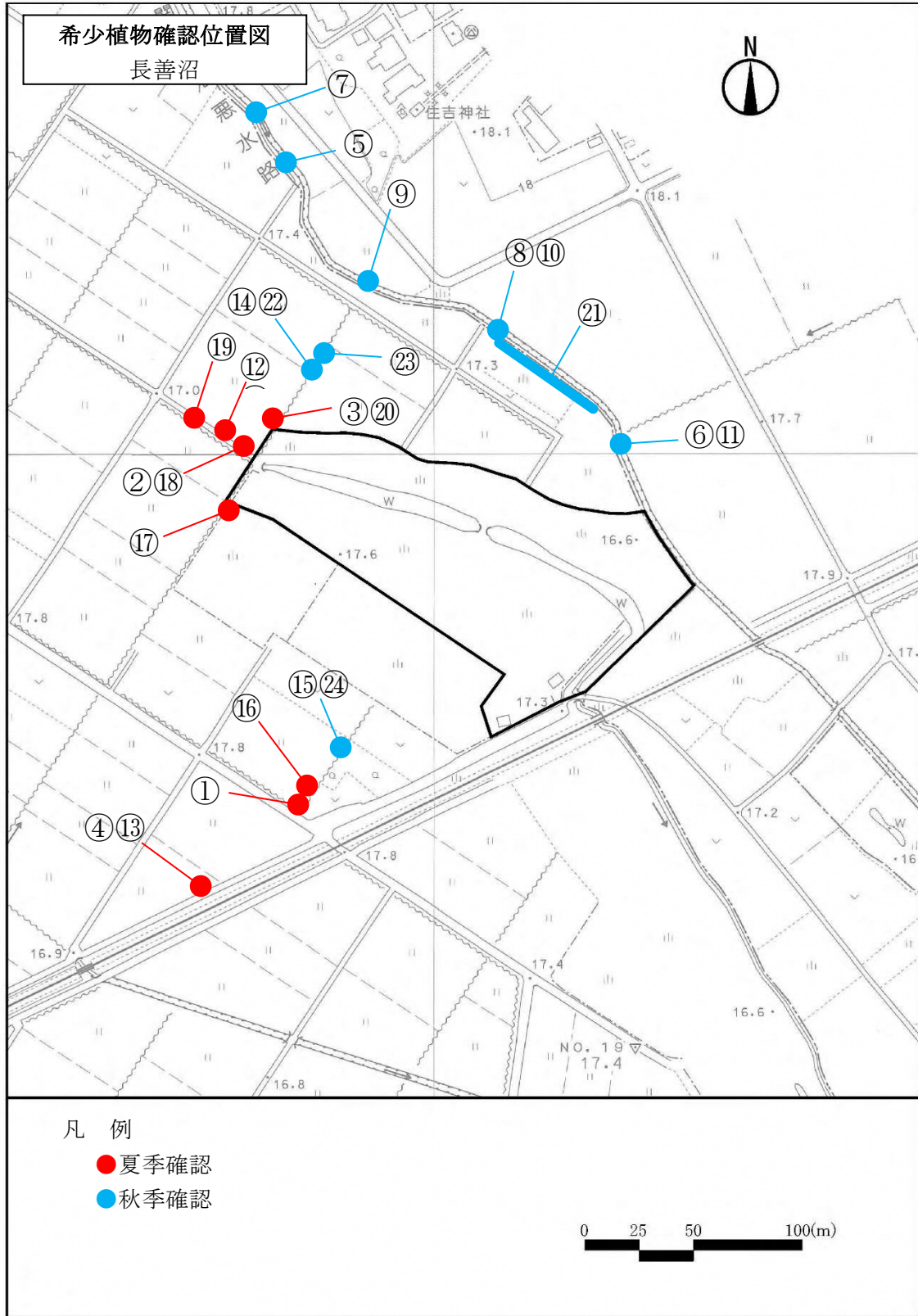


図 2-3 希少植物確認位置図〔長善沼〕



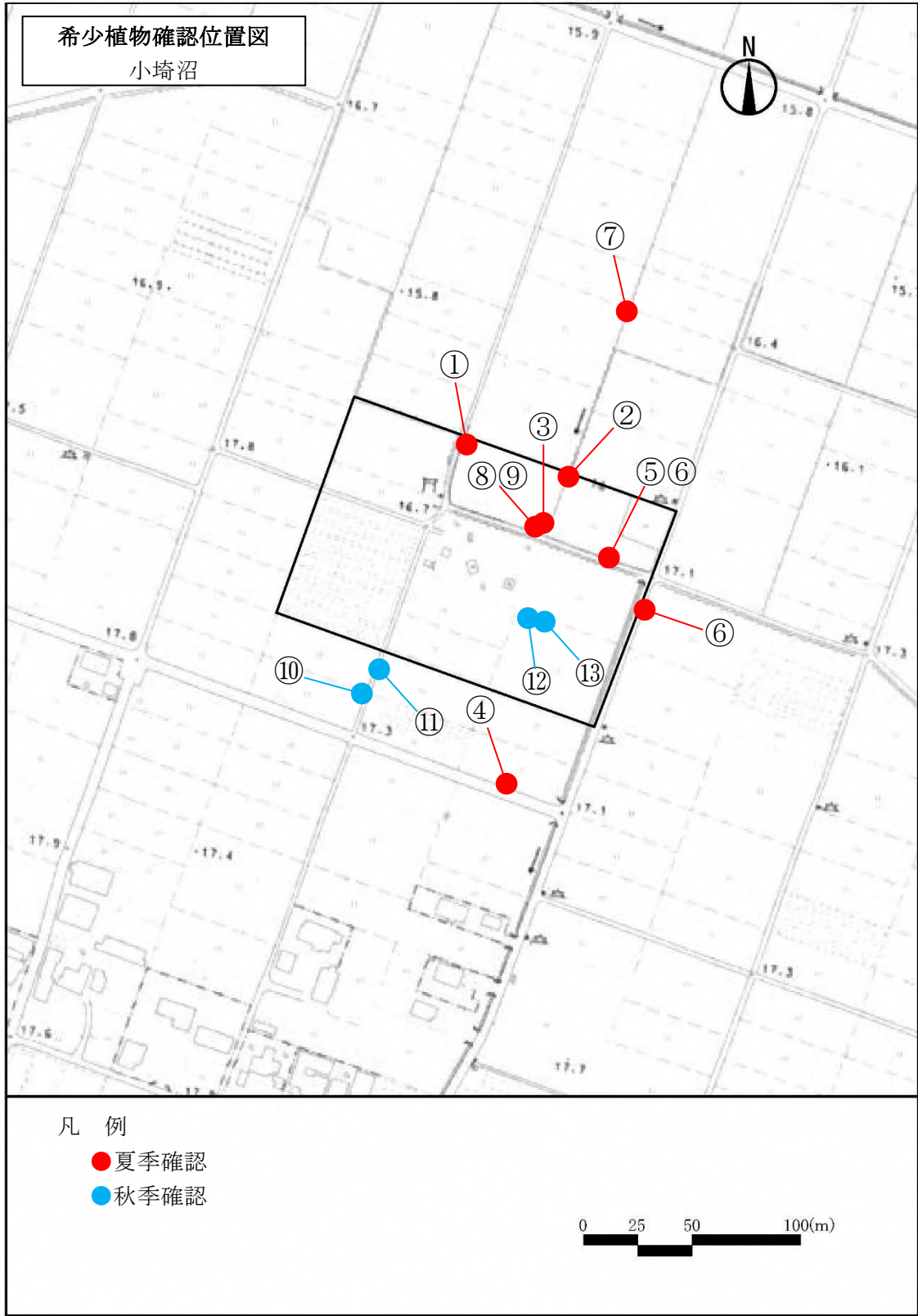


図 2-4 希少植物確認位置図 [小埼沼]

（２）哺乳類

現地調査の結果、2目6科6種の哺乳類を確認した。なお、希少種は確認されなかった。現地調査で確認された哺乳類一覧を表2-5に示す。

表2-5 現地調査で確認された哺乳類一覧

目名	科名	和名	確認	夏				秋			
				切所沼	星川	長善沼	小埼沼	切所沼	星川	長善沼	小埼沼
トガリネズミ形	モグラ	アズマモグラ	塚				○				
食肉	ネコ	イネコ	撮影								○
	ジャコウネコ	ハクビシ	撮影								○
	イヌ	タヌキ	撮影								○
	イタチ	ニホンイタチ	糞	○					○		
	アライグマ	アライグマ	撮影						▲		○
2目	6科	6種	-	1種	0種	0種	1種	0種	1種	0種	4種

※撮影：センサーカメラによる無人撮影

※▲：足跡の確認



アライグマ



タヌキ

（3）鳥類

現地調査の結果、12目23科31種の鳥類を確認した。また、5目6科8種が希少種として選定されたが、埼玉県レッドデータブックにおいて適用条件に当てはまらない種が多く、実際は2目2科2種となった。

現地調査で確認された希少鳥類を表2-6に示す。また、鳥類一覧を表2-7に示す。  
 現地調査で確認された希少鳥類認状況及び確認位置を表2-8及び図2-5、6に示す。

表2-6 現地調査で確認された希少鳥類一覧

目名	科名	和名	選定基準				現地調査（R4）				
			I	II	III	IV	適用	切所沼	星川	長善沼	小埜沼
チドリ	チドリ	シロチドリ			VU	LP 繁	○			○	
	シギ	タシギ				RT 越	×			○	
カ	カ	トビ				DD 繁	×	○		○	
		オオカ			NT	VU 越・繁	○	○		▲	
		ノスリ				NT2 繁・越	×		○	○	
ブッポウソウ	カササギ	カササギ				RT 繁	×	○	○	○	
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ				NT2 繁	×			○	
スズメ	ホシジロ	ホシジロ				RT 繁	×	○		○	
5目	6科	8種	0種	0種	2種	8種		4種	2種	3種	7種

※繁：繁殖鳥 越：越冬鳥 ▲：聞き取り

埼玉県レッドデータブックより

【繁殖鳥】巣・卵・ヒナ等の確認、若しくは、その種の繁殖期間内に最低3週間以上同一場所に生息し、囀り、求愛などの繁殖行動により、同地域で繁殖していると考えられるもの

【越冬鳥】冬期間（主に11～2月）に、最低3週間以上にわたって、同一場所で生息が認められ、同地域で越冬していると考えられるもの



ノスリ



チョウゲンボウ

表 2-7 現地調査で確認された鳥類一覧

目名	科名	和名	夏				秋				
			切所沼	星川	長善沼	小埼沼	切所沼	星川	長善沼	小埼沼	
キン	キン	キン	○								
カモ	カモ	カルガモ	○	○	○		○	○			
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	○	○			○	○			
ハト	ハト	キンハト	○	○	○	○	○	○	○	○	
		トハト（外来種）	○	○		○		○			
カツオドリ	ウ	カワウ	○								
ペリカン	サギ	アサギ	○			○	○			○	
		ダイサギ	○		○	○	○	○	○	○	
チドリ	チドリ	シロチドリ								○	
	シギ	タシギ				○					
タカ	タカ	トビ	○		○	○	○			○	
		オオタカ				▲	○				
		ノスリ						○		○	
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	○		○		○				
キツキ	キツキ	コゲラ		○			○				
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ				○					
スズメ	モズ	モズ	○	○			○	○	○	○	
	カラス	オナガ	○	○				○			
		ハシボソカラス	○	○	○	○		○	○	○	
		ハシブトカラス	○	○	○	○	○	○	○	○	
		シジュウカラ	シジュウカラ	○		○				○	○
	ヒバリ	ヒバリ	○		○		○			○	
	ツバメ	ツバメ	○		○	○	○	○	○	○	
		イツハメ								○	
	ヒヨドリ	ヒヨドリ					○	○			
	セッカ	セッカ	○	○	○	○			○	○	
	ムクドリ	ムクドリ	○					○		○	
	スズメ	スズメ	○		○		○	○	○	○	
	セキレイ	ハクセキレイ				○					
		セグロセキレイ								○	
ホシロ	ホシロ	○		○					○		
12 目	23 科	31 種	21 種	10 種	13 種	13 種	13 種	16 種	11 種	16 種	

※▲：聞き取り

表 2-8 希少鳥類確認状況

調査地点	和名	調査季	個体数	確認地点
切所沼	オオタカ	秋季	1 個体	1 調査地南西～北上空
小埼沼	シロチドリ	秋季	2 個体	1 調査地北東のあぜ道

注)「確認位置」は希少鳥類確認位置図の番号に対応している。

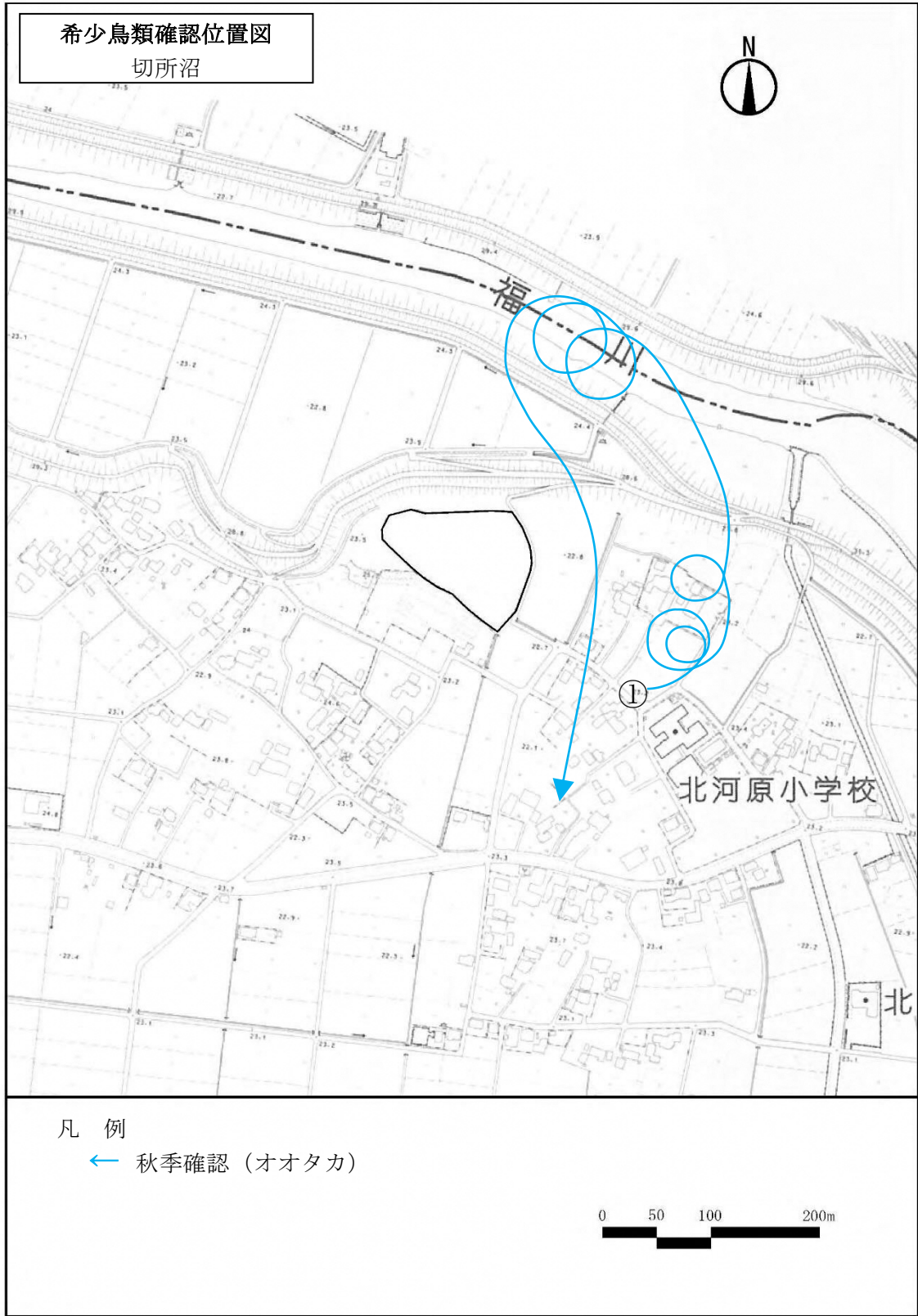


図 2-5 希少鳥類確認位置図〔切所沼〕



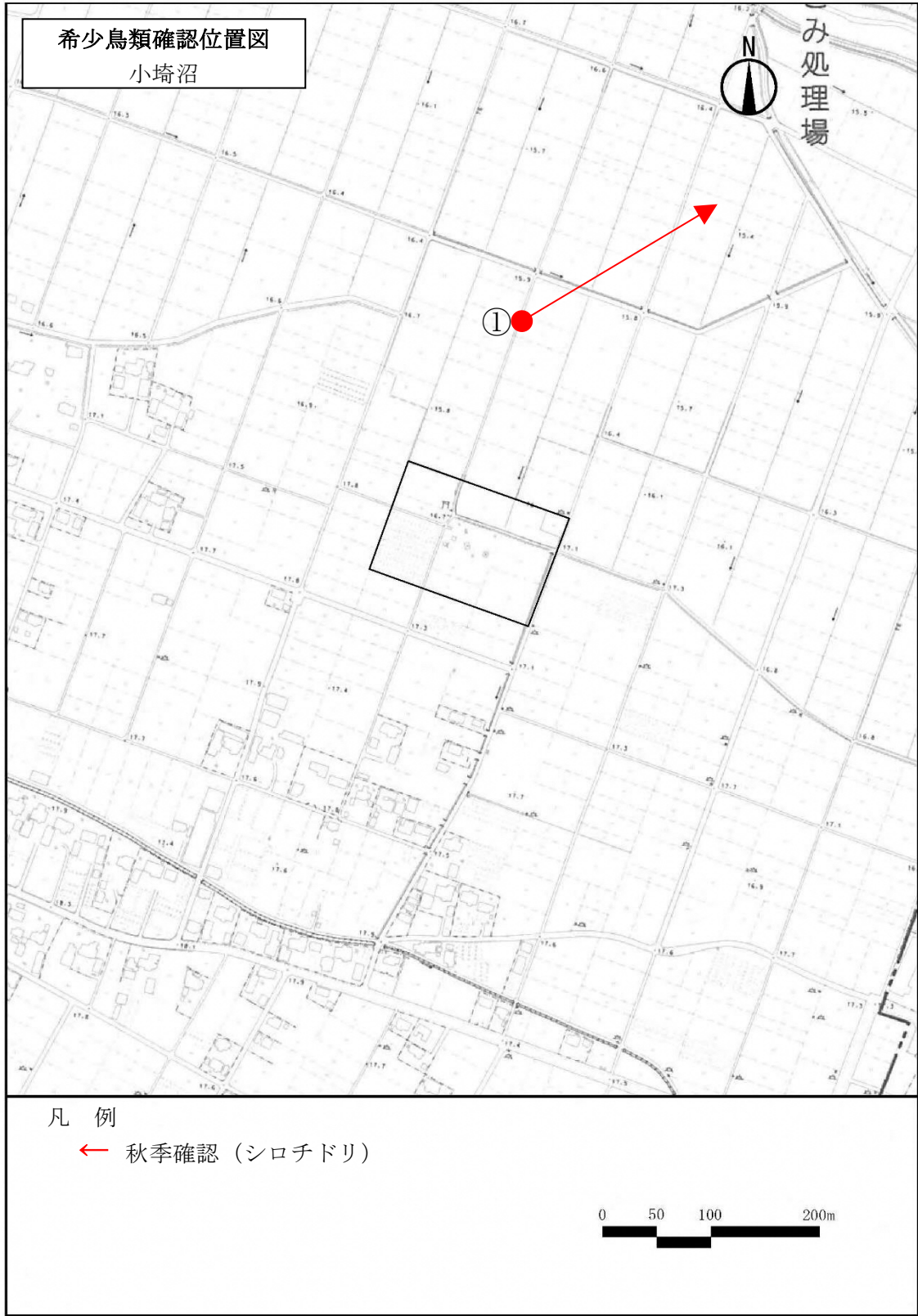


図 2-6 希少鳥類確認位置図〔小埼沼〕

（４）両生類

現地調査の結果、1目3科3種の両生類を確認した。

現地調査で確認された両生類一覧を表 2-9 に示す。なお、希少種は確認されなかった。

表 2-9 現地調査で確認された両生類一覧

目名	科名	和名	夏				秋			
			切所沼	星川	長善沼	小埼沼	切所沼	星川	長善沼	小埼沼
カエル	アマガエル	ニホンアマガエル	○	○	○	○	○			○
	アカガエル	ウシガエル	○	○	○			○	○	
	ヌマガエル	ヌマガエル	○	○	○	○		○	○	○
1 目	3 科	3 種	3 種	3 種	3 種	2 種	1 種	2 種	2 種	2 種



ニホンアマガエル



ヌマガエル

（5）爬虫類

現地調査の結果、2目4科5種の爬虫類を確認した。また、1目2科3種が希少種として選定された。

現地調査で確認された希少爬虫類を表 2-10 に示す。また、爬虫類一覧を表 2-11 に示す。

現地調査で確認された希少爬虫類確認状況及び確認位置を表 2-12 及び図 2-7, 8 に示す。

表 2-10 現地調査で確認された希少爬虫類一覧

目名	科名	和名	選定基準				現地調査 (R4)			
			I	II	III	IV	切所沼	星川	長善沼	小崎沼
トカゲ	カナヘビ	ニホンカナヘビ						○		
	ナミヘビ	シマヘビ							○	
		ヤマカガシ							○	
1 目	2 科	3 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	1 種	2 種	0 種



ニホンカナヘビ



クサガメ

表 2-11 現地調査で確認された爬虫類一覧

目名	科名	和名	夏				秋			
			切所沼	星川	長善沼	小埼沼	切所沼	星川	長善沼	小埼沼
カメ	イシガメ	クサガメ						○		
	ヌマガメ	ミシシippアカミカメ		○	○		○	○	○	
トカゲ	カナヘビ	ニホンカナヘビ		○						
	ナミヘビ	シマヘビ						○		
		ヤマカガシ							○	
2 目	4 科	5 種	0 種	1 種	1 種	0 種	1 種	2 種	4 種	0 種

表 2-12 希少爬虫類確認状況

調査地点	和名	調査季	個体数	確認地点
星川	ニホンカナヘビ	夏季	1 個体	1 河川敷
		秋季	1 個体	2 休耕田
長善沼	シマヘビ	秋季	1 個体（抜殻）	1 溜池沿い
	ヤマカガシ	秋季	1 個体	2 水路沿い

注) 「確認位置」は爬虫類確認位置図の番号に対応している。



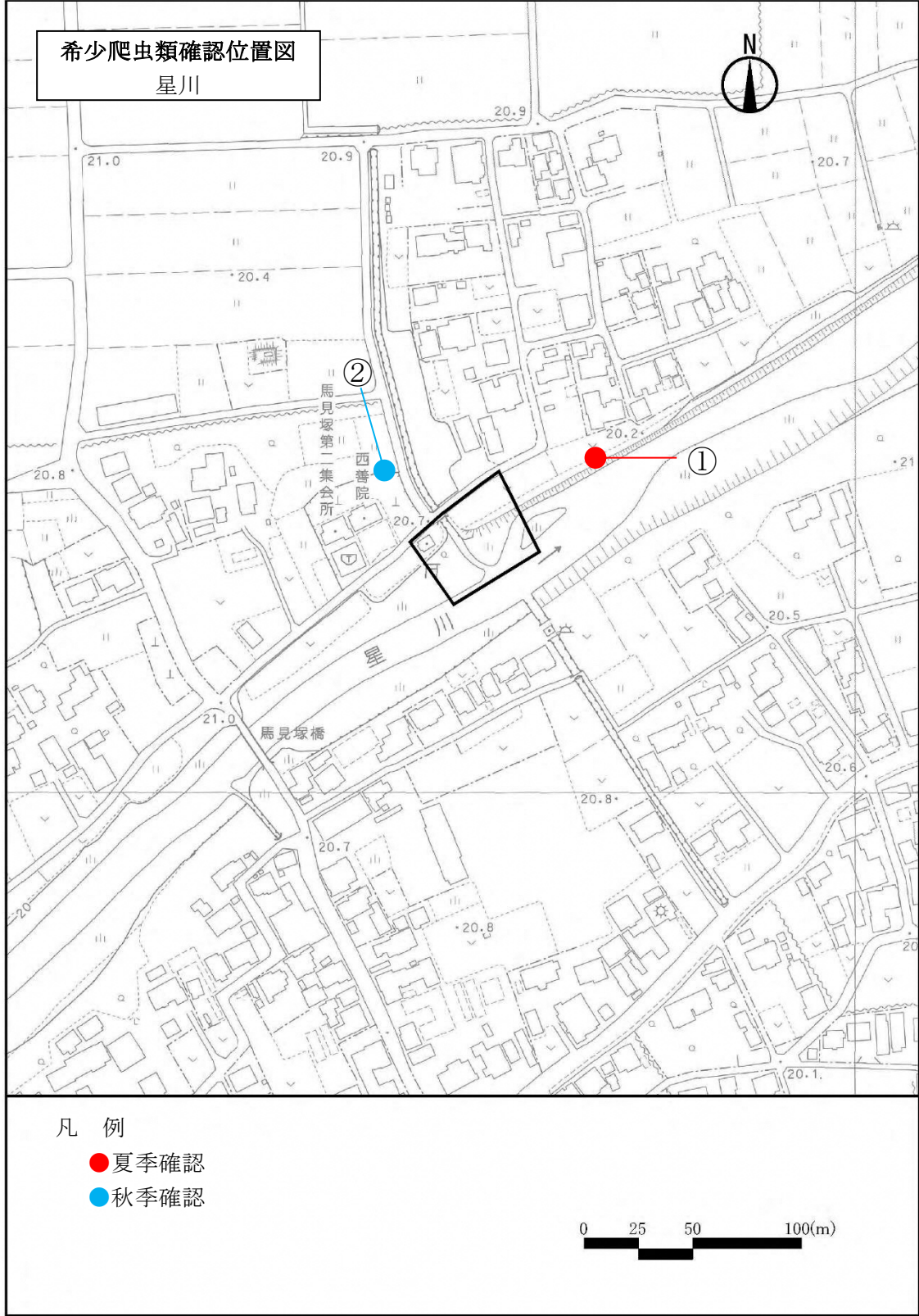


図 2-7 希少爬虫類確認位置図〔星川〕



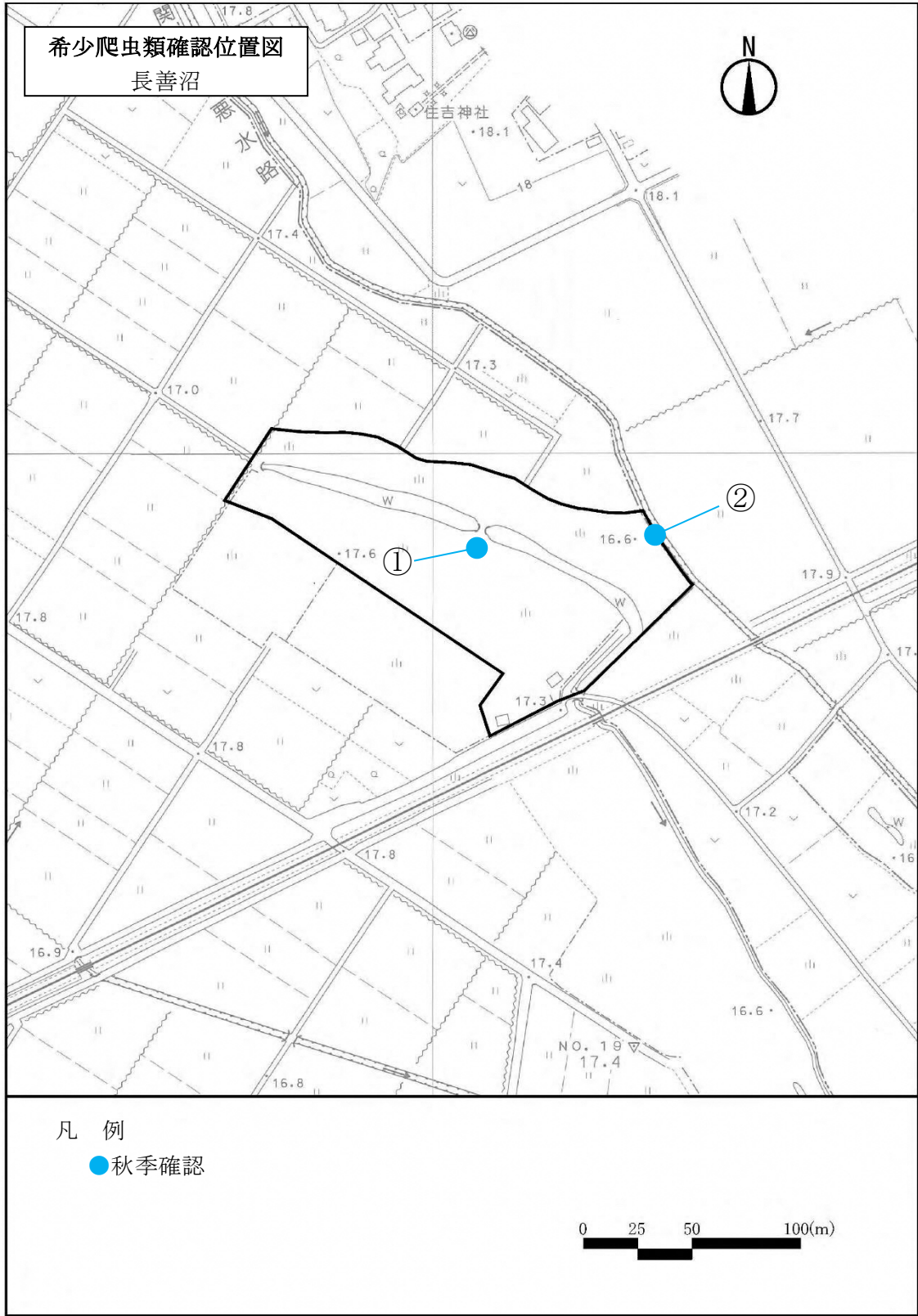


図 2-8 希少爬虫類確認位置図〔長善沼〕

（6）昆虫類

現地調査の結果、10目66科149種の昆虫類を確認した。また、4目5科5種が希少種として選定された。

現地調査で確認された希少昆虫類を表 2-13 に示す。また、昆虫類一覧を表 2-14(1)～(4)に示す。

現地調査で確認された希少植物確認状況及び確認位置を表 2-15 及び図 2-9～12 に示す。

表 2-13 現地調査で確認された希少昆虫類一覧

目名	科名	和名	選定基準				現地調査 (R4)			
			I	II	III	IV	切所沼	星川	長善沼	小崎沼
ハッタ	スズムシ	スズムシ				RT			○	
	ハッタ	ハネカゲイコ				NT1			○	
カメムシ	カメムシ	ヒメナガメ				NT2			○	
コウチュウ	ガムシ	コガムシ			DD				○	
チョウ	セセリチョウ	オオチャバネセセリ				NT2	○	○	○	○
4目	5科	5種	0種	0種	1種	4種	1種	1種	5種	1種



ヒメナガメ



オオチャバネセセリ

表 2-14(1) 現地調査で確認された昆虫類一覧

目名	科名	和名	夏				秋			
			切所沼	星川	長善沼	小埼沼	切所沼	星川	長善沼	小埼沼
トンボ	イトトンボ	アジイトトンボ	○	○		○	○	○	○	
	カワトンボ	ハクローンボ			○			○		
	サナエトンボ	ウチリヤンマ	○							
	オニヤンマ	オニヤンマ					○	○		
	ヤンマ	キンヤンマ					○	○	○	
	トンボ	コフキトンボ		○				○	○	
		シオカラトンボ		○	○	○	○	○	○	○
		ウスハキトンボ					○	○	○	○
		コシアキトンボ		○			○			
		ナツアカネ					○			
マユタテアカネ									○	
アキアカネ					○		○	○		
コキアフリ	チャハネコキアフリ	モリチャハネコキアフリ				○				
カマキリ	カマキリ	コカマキリ						○		
		オオカマキリ				○	○	○		
ハッタ	コオロキ	マダラス					○			
		エンマコオロキ	○	○	○	○	○	○	○	
		ツツレサセコオロキ			○		○			
	クサヒバリ	ウスグモス				○				
	スズムシ	スズムシ						○		
	マツムシ	アオマツムシ						○	○	
	カネタタキ	カネタタキ				○		○	○	
	キリギリス	サトクダマキモトキ				○				○
		ヤブキリ			○					
		ウスイロササキリ						○		
		ササキリ	○		○		○	○		
		クヒキリギリス			○	○				
		クサキリ	○			○				
	オンブハッタ	オンブハッタ	○		○	○		○	○	
	ハッタ	ショウリョウハッタ		○		○	○	○	○	
		トノサマハッタ	○		○		○	○	○	
		クルマハッタモトキ					○		○	
		ハネナカイナコ							○	
		コハネイナコ			○		○		○	○
		ツチイナコ					○			
イボハッタ						○				
ヒシハッタ	ハネナカヒシハッタ							○		
	ヤセヒシハッタ			○						
カメムシ	ハネナカウンカ	アカハネナカウンカ			○					
	アオハハコロモ	アオハハコロモ				○			○	
	セミ	アブラゼミ		○	○	○	○			
		ツクツクホウシ		○	○	○	○	○	○	○
		ミンミンゼミ		○	○	○	○			
		ニイイゼミ			○					
アオスキヨコバイ	アオスキヨコバイ			○						

表 2-14(2) 現地調査で確認された昆虫類一覧

目名	科名	和名	夏				秋				
			切所沼	星川	長善沼	小埼沼	切所沼	星川	長善沼	小埼沼	
カメムシ	オオヨコハ <sup>イ</sup>	オオヨコハ <sup>イ</sup>			○				○		
	アメンホ <sup></sup>	アメンホ <sup></sup>		○			○		○	○	
	カスミカメムシ	アカスジ <sup>カスミカメ</sup>				○		○	○	○	
		イネホソミト <sup>リカスミカメ</sup>			○	○	○	○		○	
		ク <sup>ン</sup> ハ <sup>イ</sup> カスミカメ		○						○	
	ク <sup>ン</sup> ハ <sup>イ</sup> ムシ	アワタ <sup>チソウク<sup>ン</sup>ハ<sup>イ</sup></sup>			○		○	○		○	
	ナカ <sup>カ</sup> カメムシ	エチコ <sup>ヒメナカ<sup>カ</sup>カメムシ</sup>				○			○		
		チビ <sup>ヒメヒラタナカ<sup>カ</sup>カメムシ</sup>						○			
		ヒメオオメカメムシ			○		○		○		
	メタ <sup>カナカ<sup>カ</sup>カメムシ</sup>	メタ <sup>カナカ<sup>カ</sup>カメムシ</sup>				○				○	
	ヘリカメムシ	ホオス <sup>キカメムシ</sup>				○			○	○	
		オオクモヘリカメムシ				○				○	
		ハリカメムシ			○	○	○		○	○	
	ヒメヘリカメムシ	アカヒメヘリカメムシ			○	○		○	○		
	カメムシ	ヒメナカ <sup>メ</sup>			○						
ムラサキシラホシカメムシ					○				○		
シラホシカメムシ				○	○						
チャハ <sup>ネアオカメムシ</sup>									○		
アミメカゲ <sup>ロウ</sup>	ヒメカゲ <sup>ロウ</sup>	ミト <sup>リヒメカゲ<sup>ロウ</sup></sup>								○	
	クサカゲ <sup>ロウ</sup>	ヨツホ <sup>シクサカゲ<sup>ロウ</sup></sup>						○			
コウチュウ	オサムシ	ジ <sup>ュウシ<sup>アトキリコ<sup>ミ</sup>ムシ</sup></sup>				○					
	ガ <sup>ム</sup> シ	コガ <sup>ム</sup> シ							○		
		ヒメガ <sup>ム</sup> シ				○					
	マルハナノミ	トビ <sup>イロマルハナノミ</sup>							○		
	コカ <sup>ネ</sup> ムシ	アオト <sup>ウカ<sup>ネ</sup></sup>				○					○
		ト <sup>ウカ<sup>ネフ<sup>イフ<sup>イ</sup></sup></sup></sup>				○					
		コアオハナムグ <sup>リ</sup>				○					
		シロテンハナムグ <sup>リ</sup>		○							
	タマムシ	ヒシモンナカ <sup>タマムシ</sup>			○						
	コメツキムシ	サビ <sup>キコリ</sup>				○					
	テントウムシ	クロハリヒメテントウ									○
		ナナホシテントウ		○	○	○	○	○	○	○	
		マクカ <sup>タテントウ</sup>						○			
		ナミテントウ						○			
		ヒメカメノコテントウ		○		○	○	○	○		
	ツチハンミョウ	マメハンミョウ			○				○		
	カミキリムシ	アトモンサビ <sup>カミキリ</sup>				○					
	ハムシ	アカクヒ <sup>ホ<sup>ソハムシ</sup></sup>				○					
		ト <sup>ウカ<sup>ネサルハムシ</sup></sup>			○				○		
		クロウリハムシ			○	○			○		
		スジ <sup>カミナリハムシ</sup>								○	
		ブ <sup>タクサハムシ</sup>					○		○		
	ゾ <sup>ウム</sup> シ	チビ <sup>コフキゾ<sup>ウム</sup>シ</sup>			○						
イネミス <sup>ゾ<sup>ウム</sup>シ</sup>			○								
ヤノシキ <sup>ゾ<sup>ウム</sup>シ</sup>				○							

表 2-14(3) 現地調査で確認された昆虫類一覧

目名	科名	和名	夏				秋			
			切所沼	星川	長善沼	小埼沼	切所沼	星川	長善沼	小埼沼
ハチ	アリ	キイロシリアゲアリ			○	○				
		ヒメアリ				○				○
		アス <sup>マ</sup> オオス <sup>マ</sup> アリ								○
		アミアリ			○			○	○	
		トビ <sup>イ</sup> ロシワアリ						○		
		ウメマツアリ				○				○
		トビ <sup>イ</sup> ロケアリ				○			○	○
		アメイロアリ				○				○
		サクラアリ								○
	スス <sup>メ</sup> ハ <sup>チ</sup>	セク <sup>ロ</sup> アシナカ <sup>ハ</sup> チ		○			○	○		
		コアシナカ <sup>ハ</sup> チ			○					
		コカ <sup>タ</sup> スス <sup>メ</sup> ハ <sup>チ</sup>							○	
		オオス <sup>メ</sup> ハ <sup>チ</sup>					○		○	
		キイロスス <sup>メ</sup> ハ <sup>チ</sup>	○							
	コハナハ <sup>チ</sup>	ス <sup>マ</sup> マルコハナハ <sup>チ</sup>			○					
ミツハ <sup>チ</sup>	トラマルハナハ <sup>チ</sup>							○		
	セイヨウミツハ <sup>チ</sup>					○		○		
ハエ	カ	ヒトスジ <sup>シ</sup> マカ				○				
	ケバ <sup>エ</sup>	メスアカケバ <sup>エ</sup>					○			
	ミス <sup>ア</sup> ブ	コウカアブ				○				
	ツリアブ	クロハ <sup>ネ</sup> ツリアブ	○							
	ハナアブ	ホソヒラタアブ			○	○		○		○
		オオハナアブ	○				○		○	
	ミキ <sup>ワ</sup> ハ <sup>エ</sup>	カマハ <sup>エ</sup> の一種			○					
チョウ	セセリチョウ	イチモンジ <sup>セ</sup> セリ	○	○	○	○	○		○	
		チャハ <sup>ネ</sup> セセリ	○	○		○	○	○		
		オオチャハ <sup>ネ</sup> セセリ	○	○	○	○	○		○	
	アゲ <sup>ハ</sup> チョウ	ジ <sup>ヤ</sup> コウアゲ <sup>ハ</sup>	○				○			
		アオスジ <sup>ア</sup> ゲ <sup>ハ</sup>	○							
		カラスアゲ <sup>ハ</sup>							○	
		キアゲ <sup>ハ</sup>			○		○			
		ナカ <sup>サ</sup> キアゲ <sup>ハ</sup>						○		
		クロアゲ <sup>ハ</sup>					○			
		ナミアゲ <sup>ハ</sup>	○	○		○	○	○		
	シロチョウ	モンキチョウ			○					○
		キタキチョウ						○	○	○
		モンシロチョウ	○			○	○	○	○	○
	シジ <sup>ミ</sup> チョウ	ルリシジ <sup>ミ</sup>						○	○	
		ツハ <sup>メ</sup> シジ <sup>ミ</sup>		○	○				○	
		ウラナシジ <sup>ミ</sup>						○	○	
		ヘ <sup>ニ</sup> シジ <sup>ミ</sup>			○					
		ムラサキシジ <sup>ミ</sup>						○		
		ヤマトシジ <sup>ミ</sup>			○	○			○	
	ウラキ <sup>ン</sup> シジ <sup>ミ</sup>	ウラキ <sup>ン</sup> シジ <sup>ミ</sup>						○		
	タテハチョウ	ツマク <sup>ロ</sup> ヒョウモン								○
ヒメアカタテハ						○		○		

表 2-14(4) 現地調査で確認された昆虫類一覧

目名	科名	和名	夏				秋			
			切所沼	星川	長善沼	小埼沼	切所沼	星川	長善沼	小埼沼
チョウ	タテハチョウ	アカホシゴマダラ			○			○	○	
		ゴマダラチョウ	○			○			○	○
		コムシジ	○			○		○		
		キタテハ					○		○	
	シヤノメチョウ	ヒカゲチョウ				○			○	○
		ヒメシヤノメ				○				○
	スズメガ	セスジスズメ	○	○			○			
	トクガ	マイマイガ			○	○				
	ヒトリガ	カノコガ	○		○	○				
	ヤガ	フクラスズメ					○			
		ニレキリガ				○				
	イラガ	アオイイラガ								○
	ツトガ	シロヒメノメイガ	○				○		○	
10 目	66 科	149 種	32 種	17 種	52 種	57 種	47 種	36 種	60 種	44 種

表 2-15 希少昆虫類確認状況

調査地点	和名	調査季	個体数	確認地点
切所沼	オチヤハ <sup>レ</sup> ネセリ	夏季	1 個体	1 草地
			3 個体	2 草地
			1 個体	3 草地
			2 個体	4 草地
			3 個体	5 草地
			2 個体	6 草地
		秋季	10 個体	7 草地
			5 個体	8 草地
			3 個体	9 草地
			2 個体	10 草地
			2 個体	11 草地
			1 個体	12 草地
			1 個体	13 草地
星川	オチヤハ <sup>レ</sup> ネセリ	夏季	10 個体	1 草地
			10 個体	2 草地
		秋季	2 個体	3 草地
			2 個体	4 草地
長善沼	スス <sup>レ</sup> ムシ	秋季	1 個体（鳴声）	1 草地
	ハネカ <sup>レ</sup> イゴ	秋季	5 個体	2 草地
	ヒメカ <sup>レ</sup> メ	夏季	1 個体	3 草地
	コガ <sup>レ</sup> ムシ	秋季	1 個体	4 水田
	オチヤハ <sup>レ</sup> ネセリ	夏季	1 個体	5 草地
			2 個体	6 草地
			1 個体	7 草地
		秋季	2 個体	8 草地
			3 個体	9 草地
			3 個体	10 草地
			2 個体	11 草地
小崎沼	オチヤハ <sup>レ</sup> ネセリ	夏季	1 個体	1 林縁
			3 個体	2 草地
			4 個体	3 草地

注 1) 「確認位置」は昆虫類確認位置図の番号に対応している。

注 2) 特に表記のないものは成虫での確認である。



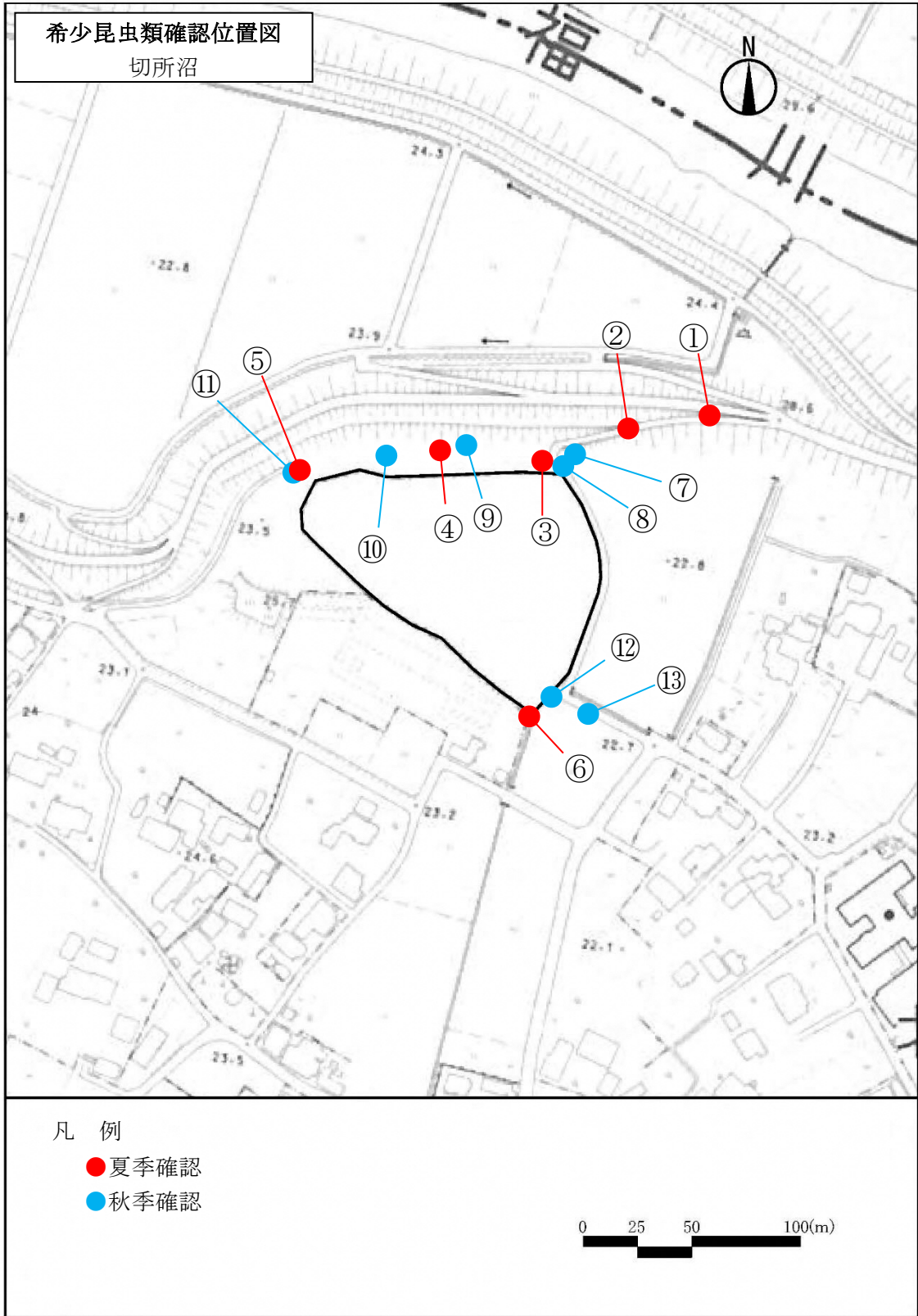


図 2-9 希少昆虫類確認位置図〔切所沼〕

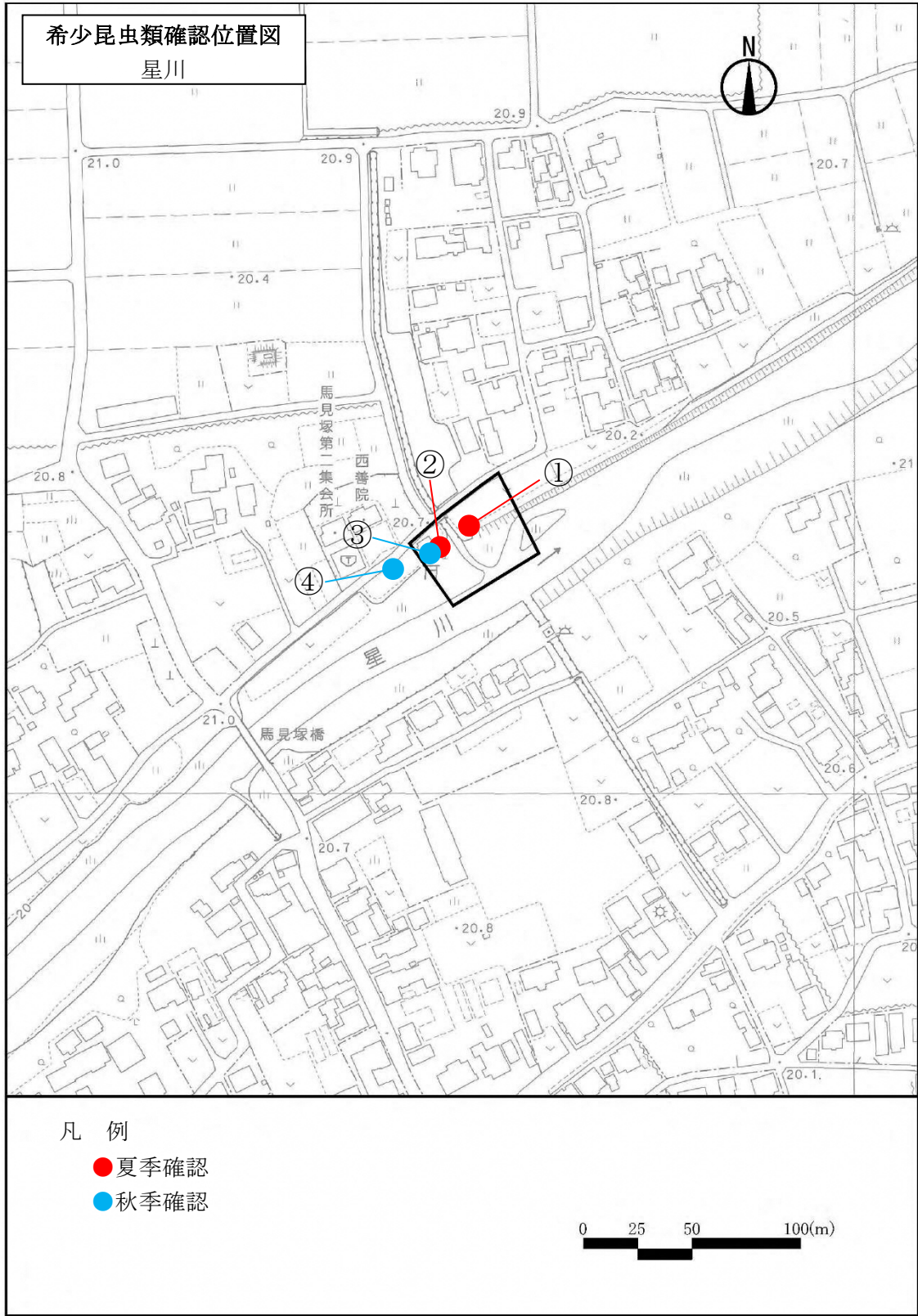


図 2-10 希少昆虫類確認位置図〔星川〕



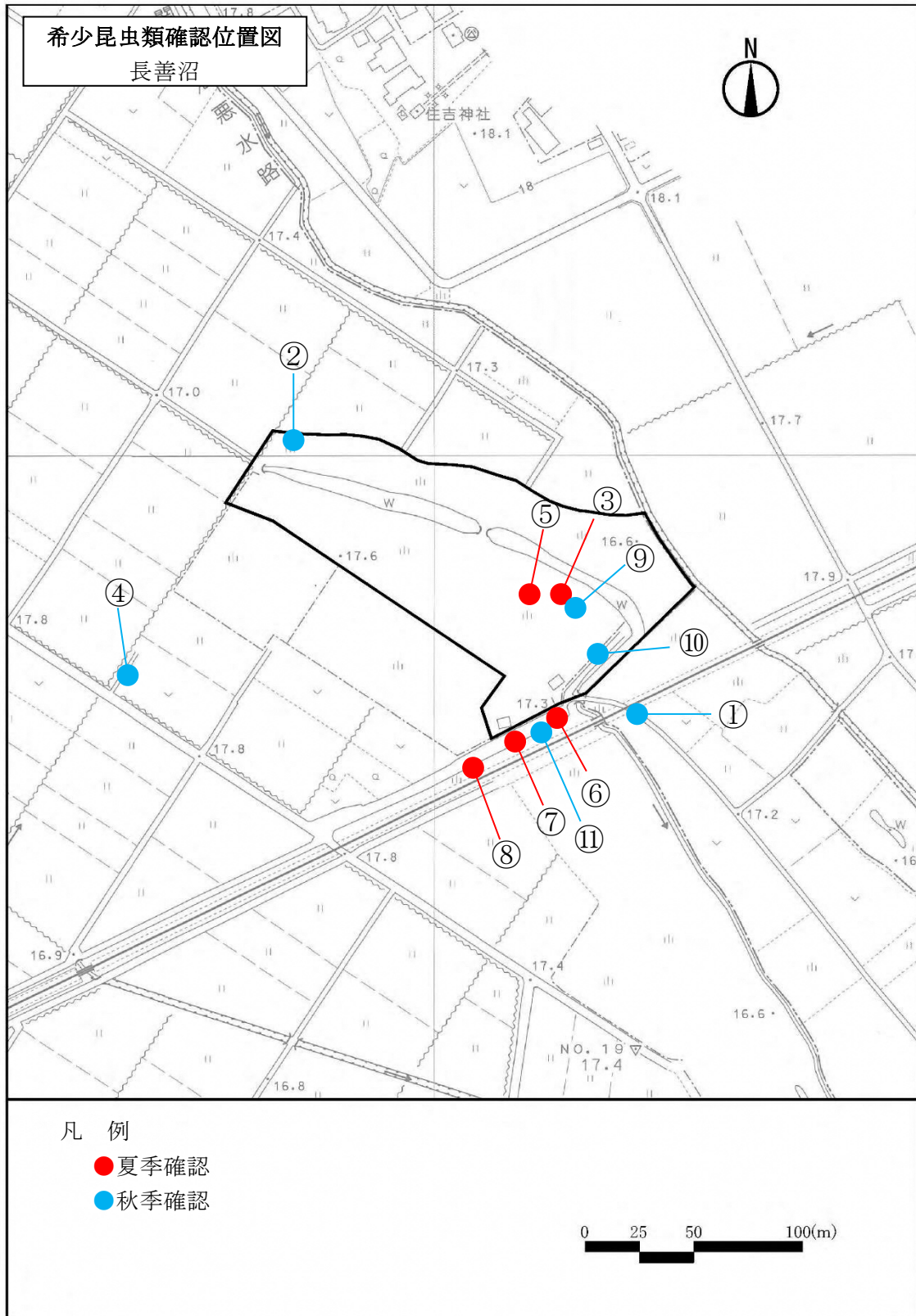


図 2-11 希少昆虫類確認位置図〔長善沼〕

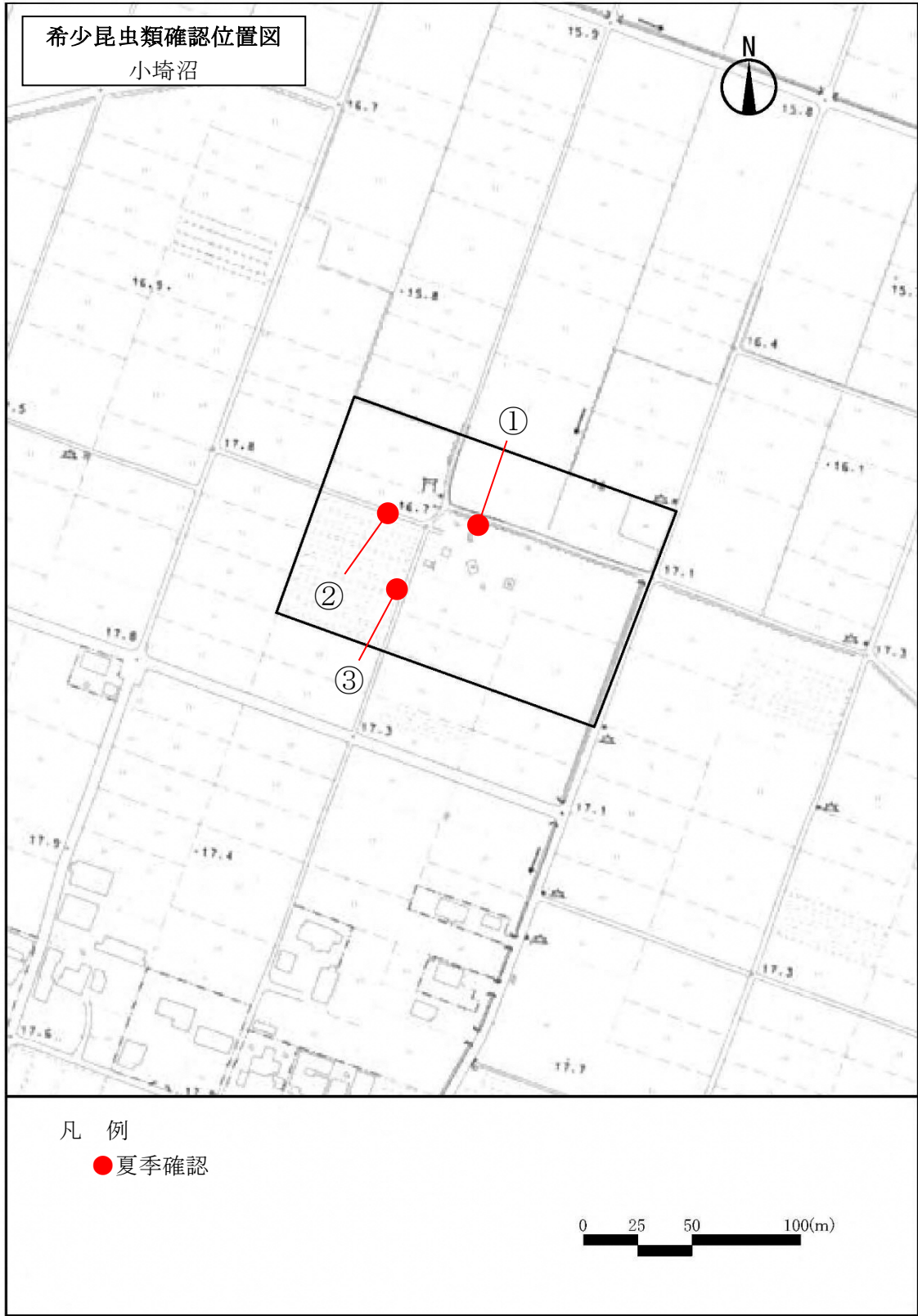


図 2-12 希少昆虫類確認位置図〔小埼沼〕

(7) キタミソウ補足調査結果

①キタミソウ（北見草）の特徴について

北半球の温帯から亜寒帯にかけて広く分布するオオバコ科（旧ゴマノハグサ科）の小型の多年草で、国外では、シベリア、カムチャッカ半島、サハリン（ツンドラ地帯）、日本国内では北海道、群馬県、栃木県、埼玉県、茨城県、千葉県、奈良県、熊本県に見られる希少な植物である。明治時代の中頃、北海道の北見地方で発見されたことから「キタミソウ」と名づけられている。

キタミソウは、もともと北方のツンドラ地帯に生育し、長い冬の後、雪解けとともに芽を出し、花をつけるという生活史を持っている。しかし、行田市の星川で見られるキタミソウは、夏の間、水底で休眠しており、稲作が終わり、川の水位が下がった時期に芽を出すという、夏冬の逆転した生活史を持っている。

草丈は、2～5cm 程度、葉は細いへら状をした形で、多くの葉を伸ばす。花は、葉に隠れるように、直径 2.5mm～3mm 程度の小さな白い花をつける。さらに、地面をほうように、ほふく茎（ランナー）と呼ばれる茎が伸長し、新たな個体が発生する。その後、多くの種子が形成されると、休眠期に移行する。このような生活史のサイクルは、水位の管理や生育地の保全活動によって維持されてきた。

その他、キタミソウについては、埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例（平成 12 年 3 月施行）により、「県内希少野生動植物種」に指定されており、生きている個体の採取等には、知事への届出が必要となっている。



キタミソウ（令和 4 年 10 月 25 日撮影）

撮影地：星川 馬見塚橋付近



②現地調査結果

現地調査は、令和 4 年 10 月 25 日に星川の馬見塚橋付近に生育するキタミソウの生育状況等の確認を行った。

・馬見塚橋付近

馬見塚橋下流左岸部では、平成 24 年の秋季から平成 25 年の冬季にかけて改修工事が行われた。キタミソウ自生地を表土については、工事の際、適切に保存され、自然裸地として新たな生育地の創出が行われている。

本年度の秋季調査時には、星川の水位は下がり、夏季調査時に水没していた川岸の裸地（本生育地）が出現し、キタミソウの生育が多数確認されたほか、随伴種としてコイヌガラシやコギシギシの生育も確認した（表 2-15、図 2-2 参照）。

平成 24 年度調査から 10 年経過した現在、キタミソウが 1,000 株以上まで増加していることから、生育環境が良好に維持されていると判断された。



キタミソウ（中央）とコイヌガラシ



キタミソウ



キタミソウ生育環境（令和 4 年 10 月）

・・・・・・・・参 考・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・








平成 24 年度調査当時の様子（平成 25 年 2 月）



<補足調査> キタミソウ保全地（馬見塚橋付近）の上下流

調査実施日：2023年1月27日

地点1 星川橋







上流側の状況	下流側の状況	自生地周辺の状況
		
		
<p>星川橋周辺では、多くの個体が開花状態であった。ただし、一部は茶色に変色するとともに結実していた。自生地周辺のヨシ等の高茎植生は、良好に管理されている。</p>		

地点2 馬見塚橋







上流側の状況	下流側の状況	自生地周辺の状況
		
		
<p>馬見塚橋周辺では、ほとんどの個体が茶色で結実した状態であったが、開花する個体もみられた。キタミソウ保全地周辺は、極めて良好に植生管理されている。</p>		



地点3 北進大橋

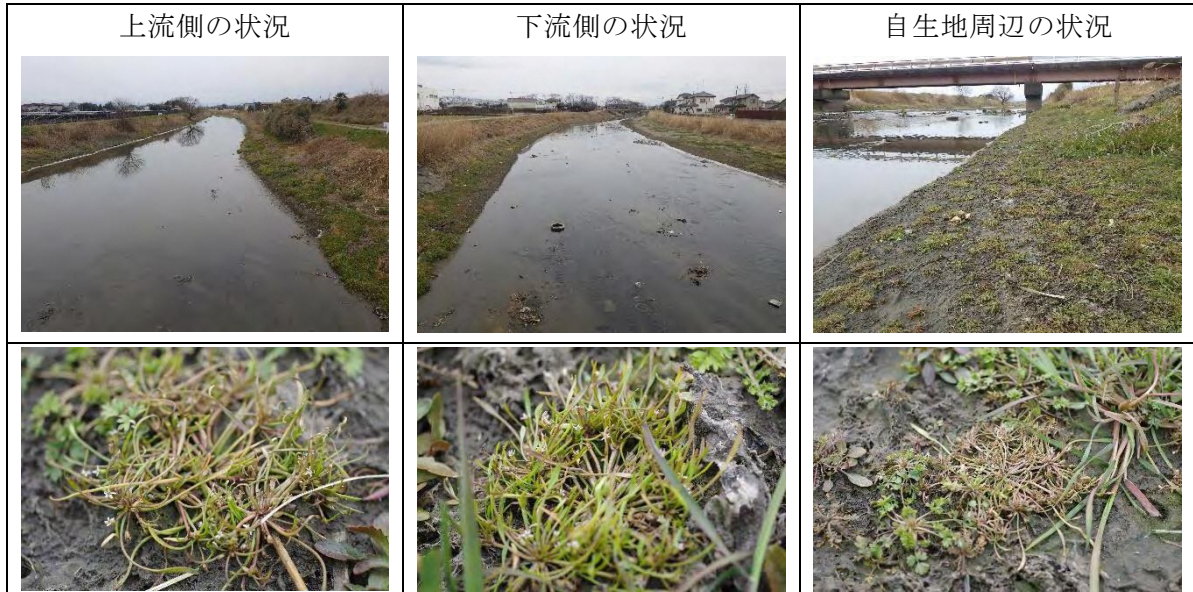
上流側の状況	下流側の状況	自生地周辺の状況
		
		
<p>北進大橋周辺では、ほとんどの個体が茶色になり種子がみられた。周辺環境は、護岸部にヨシが残るが、きれいに管理されている。</p>		

地点4 天籟橋

上流側の状況	下流側の状況	自生地周辺の状況
		
		
<p>天籟橋周辺では、護岸工事が終了しており、高茎植生はまばらである。当地のキタミソウのほとんどは開花中で、茶色に変色し結実している株はごく一部であった。</p>		



地点 5 北宿橋



北宿橋周辺では、軟らかい泥で河床が構成されており、アライグマやタヌキの足跡が目立つ。当地のキタミソウは、多くが茶色になりつつあるものの、開花中の株が目立った。

キタミソウの状態



開花する株

結実した株

### 3. 考察

#### 3.1 生物多様性を涵養<sup>かんよう</sup>する環境の保全

生物多様性の宝庫と言われる水田は、行田市内 2,650ha（※）存在し市域の 39.3%を占めている。本調査結果及び過去の資料を見ても多種多様な動植物が確認されている。とくにオオタカやノスリといった猛禽類の生息がみられ、餌生物の量に加え、生息環境が良好に保全されていることをうかがわせていた。

一方で地上付近から水域をみると、外来生物が多く確認される結果となった（外来生物に関しては後述する）。とくに平成 24 年時にごく少数確認されていたトウキョウダルマガエルが確認されず、国内移入種のヌマガエルに置き換わっていることや、長善沼周辺にスクミリンゴガイの卵塊が確認など、外来生物の生息拡大が顕著である。また、現地調査では確認されていないが、ウメやモモ、サクラなどを食害するクビアカツヤカミキリの生息拡大も懸念材料である。

なお、除草剤を畦畔に多く使用している箇所もみられるため、使用を抑制することで生物多様性の保護増進につながる。

- 農業被害をもたらすスクミリンゴガイや、サクラ等を食害するクビアカツヤカミキリといった外来生物の早期発見及び駆除に努める。
- 除草剤抑制の取り組みを広げること、春季から初夏の生育期における過度な草刈りを控えることでミズワラビやコイヌガラシ、コギシギシなどの畦畔に群落を形成する希少植物の個体数を維持することにつながる。

※ 令和 3 年面積調査（農林水産省 市町村の姿-グラフと統計でみる農林水産業 基本データ）より

#### 3.2 希少動植物の保全と生物多様性

希少動植物は、その生育・生息場の減少や形質の変化に対応できずに個体数を減少させている。そのような中でもキタミソウの自生地では、保全地の設定とともに、市民団体による保全活動が行われている。このように、現状では何らか人の手を加えることで持続的な種の保存が図られていることとなる。

一方、保全対象種だけで野生状態を維持することは極めて稀で、生物多様性の増進がそれぞれの種の競争や共存等の関係性を育むため、それぞれの地域に適した環境保全への対応が望まれる。また、このことは、前述の外来生物の駆除等も含まれることとなる。

- 環境保全活動への市民の協力を醸成するとともに、現地を確認することで順応的な生息場管理を実施する。
- 生物多様性の増進を目指し、市民との協働による外来生物の駆除を実施する。



●馬見塚橋付近の河川環境

キタミソウ保全地の存する馬見塚橋周辺では、夏季には水位が上がりヨシなどが繁茂する。一部にセイタカアワダチソウなどの外来植物が混じるが、住宅地の間を流れる河川周辺は野生動植物の生育・生息場として重要な環境である。秋季から冬季には刈り払いが実施され、これらの草本が一掃され、良好な状況が維持されている。また、近隣には樹林地が点在し、調査時には樹林地に出入りするノスリの姿や、モズがトンボ類を捕らえている姿が目撃されるなど、昆虫類や両生類などの餌資源量もある程度確保できていると考えられる。ただし、水中では高密度にウシガエルの幼生及び幼体の生息がみられるとともに、ミシシippアカミミガメや国内移入種のヌマガエルなど、外来種対策が重要である。



星川・馬見塚橋付近のヨシ群落と樹林地



星川に多く見られるウシガエル（左：幼生、右：幼体）



水面に顔を出すミシシippアカミミガメ



国内移入種のヌマガエル

### 3.3 外来生物の管理

外来生物は、本来の生育・生息地域から持ち込まれた種で、その繁殖力の強さから在来生物の生育地で優占してしまったり、捕食してしまうことで、生態系の攪乱及び生物多様性の減退を招く。「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（平成16年6月2日法律第78号）に基づき指定された種は、その傾向が顕著であるため規制されている。本市においても表3-1に示す様々な特定外来生物が確認されており、それら生物種の移動、持込や増殖を防ぐとともに、飼育している生物を野外に放つなどの行為に対して啓発を進める必要がある。また、規模の大きい繁殖地については、生物多様性の回復を目指した駆除の実施が重要である。

こういった取り組みを継続することで、在来の動植物の生育・生息環境を保全とともに、望ましい生態系の維持、回復につながる。

表 3-1 (1) 主な外来生物

区分	外来生物種	考えられる影響
植物	 <p>ミズヒマワリ【特定外来生物】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繁茂による水路の閉塞</li> <li>・ 水辺で優占し、他の植物を駆逐</li> </ul> <p>&lt;確認されている場所&gt; 長善沼</p> <p>※過去には星川等でも確認されていたが、本調査ではみられなかった。</p>
	 <p>オオフサモ【特定外来生物】</p>	
	 <p>アレチウリ【特定外来生物】</p>	



表 3-1 (2) 主な外来生物

区分	外来生物種	考えられる影響
哺乳類	 <p data-bbox="496 703 842 730">アライグマ【特定外来生物】</p>	<ul data-bbox="1011 282 1305 349" style="list-style-type: none"> <li>・ 果樹園への被害</li> <li>・ 木造建築物への被害</li> </ul> <p data-bbox="1007 389 1310 456">&lt;確認されている場所&gt; 小埼沼、星川</p>
両生類	 <p data-bbox="496 1115 842 1142">ウシガエル【特定外来生物】</p>	<ul data-bbox="1011 743 1246 810" style="list-style-type: none"> <li>・ 小型動物を捕食</li> <li>・ 生態系の攪乱</li> </ul> <p data-bbox="1007 846 1310 949">&lt;確認されている場所&gt; 切所沼、星川、長善沼、 小埼沼</p>
	 <p data-bbox="496 1527 842 1554">ヌマガエル【国内移入】</p>	<ul data-bbox="1011 1160 1369 1263" style="list-style-type: none"> <li>・ トウキョウダルマガエルとの競合の可能性</li> <li>・ 水田生態系の攪乱</li> </ul> <p data-bbox="1007 1299 1310 1402">&lt;確認されている場所&gt; 切所沼、星川、長善沼、 小埼沼</p>
爬虫類	 <p data-bbox="416 1995 927 2022">ミシシippアカミミガメ【特定外来生物】</p>	<ul data-bbox="1011 1579 1219 1646" style="list-style-type: none"> <li>・ 生態系の攪乱</li> <li>・ 在来種の駆逐</li> </ul> <p data-bbox="1007 1682 1310 1749">&lt;確認されている場所&gt; 切所沼、星川、長善沼</p>

表 3-1 (3) 主な外来生物

区分	外来生物種	考えられる影響
魚類	 <p>オオクチバス【特定外来生物】 出典：環境省</p>  <p>ブルーギル【特定外来生物】 出典：環境省</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の在来魚、小動物を捕食</li> <li>・ 生態系の攪乱</li> </ul> <p>&lt;確認されている場所&gt; 切所沼、星川</p>
昆虫類	 <p>アカボシゴマダラ【特定外来生物】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オオムラサキやゴマダラチョウとの競合</li> <li>・ 生態系の攪乱</li> </ul> <p>&lt;確認されている場所&gt; 星川、長善沼</p>

表 3-1 (4) その他の外来生物

区分	外来生物種	考えられる影響
甲殻類	 <p data-bbox="454 786 884 819">アメリカザリガニ【特定外来生物】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の小型動物を捕食</li> <li>・ 水草への影響</li> <li>・ 生態系の攪乱</li> <li>・</li> </ul> <p data-bbox="1007 421 1305 488">&lt;確認されている場所&gt; 星川、小埼沼</p>
貝類	 <p data-bbox="406 1323 932 1357">スクミリンゴガイ（卵囊）【特定外来生物】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業被害（水田）</li> <li>・ 生態系の攪乱</li> </ul> <p data-bbox="1007 965 1305 1032">&lt;確認されている場所&gt; 長善沼</p> <p data-bbox="1007 1066 1374 1200">※卵囊のみの確認であり、成貝は見られなかった。分布の拡大に注意が必要である。</p>

※特定外来生物とは、生態系を破壊するおそれがあると認定された外来生物で、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号）に基づき指定されている。



### 3.4 自然環境調査地における環境保全対策の考え方

#### (1) 切所沼周辺（北河原地区）

本調査地は、釣り人が多く訪れるため池を主体として、隣接する平地林、休耕田や畑、河川堤防で構成されている。これら多様な環境では、多くの希少植物が確認された。とくに休耕田では、ヒメミズワラビが高密度で確認されるとともに、ウスゲチョウジタデやコイヌガラシが確認されている。また、堤防では少数ではあるがコイヌガラシやコギシギシ、クマツヅラがみられた。

ため池周辺の動物では、多くのシオカラトンボやコフキトンボ、少数ではあるもののウチワヤンマやギンヤンマなどがみられた。また、近隣の畑地にはキジ、上空にはオオタカの幼鳥をはじめとした多くの鳥類の生息が確認できた。

当地の環境は、水辺の湿生植物が少ないものの、水域から陸域までのエコトーンの形成により生物多様性が確保されていると考えられる。一方で、ため池や堤防、平地林の状況は安定しているものの、休耕田が荒れつつあったことから、耕起するなどある程度の管理を行うことで持続的な環境の維持につながると考えられる。水田等の二次的自然環境は、ある程度の人への介入が不可欠である。



釣り人が多く訪れる切所沼



ヒメミズワラビ



ウスゲチョウジタデ



コフキトンボ



オオタカ（若鳥）



(2) 星川周辺（馬見塚地区）

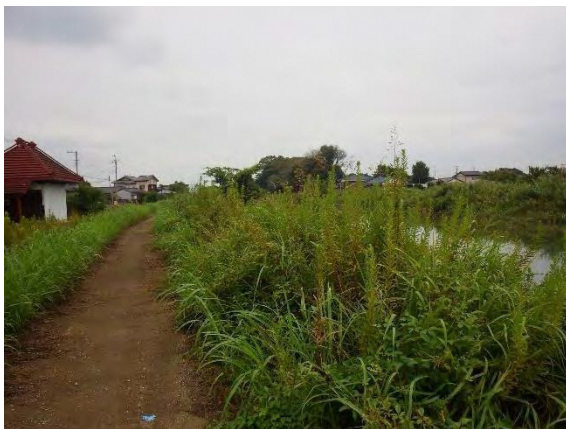
本調査地周辺は、希少植物「キタミソウ」の自生地となっており、案内・啓発看板や駐車場等、整備が進んでいる。夏季から秋季にかけて星川の護岸では、ヨシ等が繁茂するが、その後の管理作業により一部を意図的に残し刈り払われていた。キタミソウは秋季に星川の水位が低下すると多くの個体が出現し、良好な生育状況がみられた。

動物に関しては、外来種が多くみられた。ミシシippアカミミガメやウシガエル、ヌマガエル、アメリカザリガニが水域にみられるとともに、陸域ではアカボシゴマダラが確認された。しかしながら、周辺の鳥類は多様で、河畔林付近にノスリ、星川沿いにカワセミやモズ、平地林にはオナガがみられた。

環境管理の進む当地における課題は外来動物対策で、とくにウシガエルの駆除が重要である。多数の幼体が周辺の水田まで侵入している状況が確認され、その個体数は相当な数になっていると思われる。完全駆除は不可能に近いものの、個体数抑制の取組が生物多様性の増進に資する役割は大きい。



キタミソウ自生地の案内・啓発看板



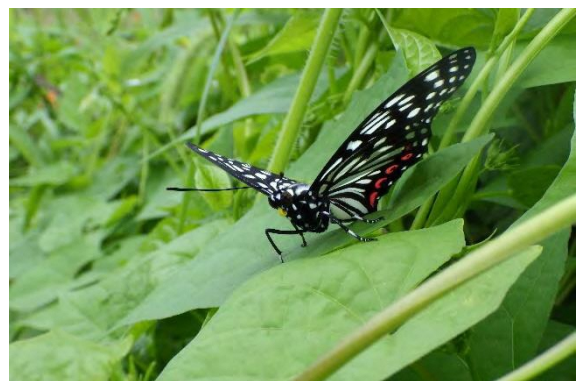
夏季～秋季の状況



晩秋～冬季の状況



トンボを捕らえたモズ



アレチウリにとまるアカボシゴマダラ



### (3) 長善沼周辺（荒木地区）

本調査地は、沼のようになっている旧河道と隣接する最終処分場、畑の点在する水田水域で構成されている。

沼内及びその周辺の管理圧は低く、水田側（東側）は水際がマコモ群落で陸上が秋のエノコログサが優占している。最終処分場側は茎高の高いセイバンモロコシに覆われていた。水際のマコモにとまるカワセミや、水面に顔を出すクサガメ及びミシシippアカミミガメが目立ち、水中には多くの魚影が確認できる。一方、最終処分場の南端にはエノキの大木があり、ゴマダラチョウの集まる様子が確認できた。

周辺の水田では、シマヘビやヤマカガシ、コガムシが確認されるとともに、国内移入種のヌマガエルが高密度で生息していた。また、最終処分場西側のコンクリート水路では、ミズヒマワリやオオフサモといった外来植物に加え、スクミリンゴガイの卵囊が確認された。

当地の水圏環境を勘案するとトンボ類をはじめとする水生・半水生の動物が少ない状況で、ウシガエルもある程度の個体数を目視したことから、捕食圧は高いと考えられる。さらに農業被害をもたらすスクミリンゴガイの卵囊の確認は、前回調査では確認されていなかったことから、水路の泥上げ等の生息場の改変圧力を与えることで個体数抑制に努める必要がある。



長善沼の全景



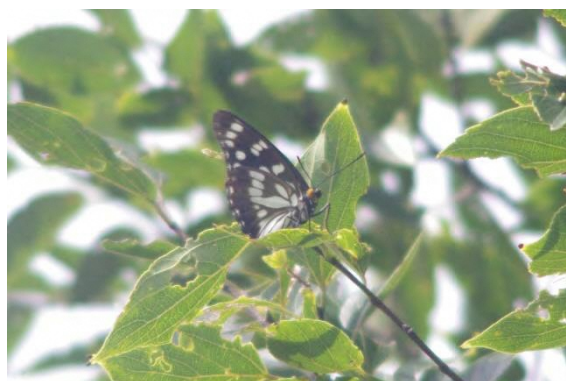
周辺水路に自生するササバモ



クサガメ



周辺の水田に多いヌマガエル



エノキにとまるゴマダラチョウ



#### (4) 小崎沼周辺（埼玉地区）

本調査地は、史跡指定の社寺林と水田で周辺環境が構成されており、希少なヒメミズワラビやセンニンモ、ヤナギモ、コキクモなどが水田内でみられるとともに、水田周辺ではコイヌガラシが繁茂し、安定した状況が確認された。ただし、平成24年度に確認しているトウキョウダルマガエルの姿、鳴声は確認できず、代わりにヌマガエルが優占しており、置き換わりが考えられる。それ以外では、ノスリなどの猛禽類の飛翔やダイサギの採餌などが観察された。さらに未舗装の農道では、シロチドリやタシギの姿もみられ、多くの鳥類が水田の周囲を生息場として利用していた。

本調査地中央の樹林地では、エノキの大木周辺でゴマダラチョウが確認された。生息場として安定していることから、越冬幼虫の保護を目指しエノキの根元に落ち葉を集めて網等で飛ばないようにする対策がとられると良い。一方、哺乳類は、特定外来生物のアライグマが確認されている。現在のところ、人的被害は確認されていないが、民家が近いこともあり駆除が望まれる。

今後、樹林地を整備する際には、下草の刈り払いや間伐、エノキの保護が重要となる。水田水域では、圃場整備等のハード整備を実施する際に土水路を残すことや環境に配慮した工法の導入等が重要となってくる。



小崎沼周辺の全景



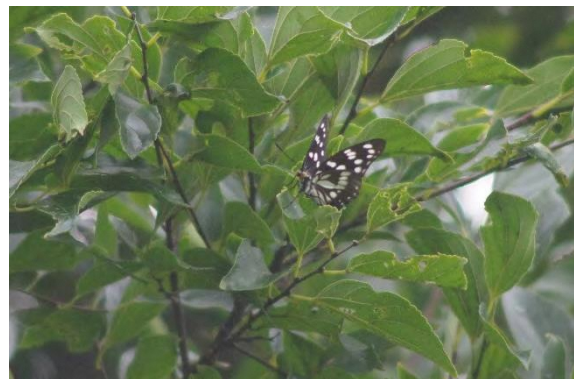
水田の水際に群生するコキクモ



樹林地周辺に定着するノスリ



水田内で餌探索するダイサギ



エノキにとまるゴマダラチョウ